

流域の人々と歩む月刊誌

くまがわ春秋

2018
7
第28号

7世代先の森づくり



爽りの秋に向けて泥んこあそび（人吉市東間上町で） © 松本 学

火の国、水の国、
焼酎の国。

球磨焼酎

織月



織月酒造株式会社
宇梶剛士



世界的な品評会で
金賞を受賞いたしました。

Los Angeles
Wine & Spirits
Competition 2018



飲酒は20歳を過ぎた後から、飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒は、胎児・乳児の発育に悪影響を及ぼすおそれがあります。

織月酒造株式会社
http://www.sengetsu.co.jp/
〒868-0052 熊本県人吉市新町1番地

月刊 くまがわ春秋 第28号 2018年7月15日発行
企画：人吉球磨総合研究会 発行：人吉中央出版社
〒868-0015 熊本県人吉市下城本町1436-4の3号
http://www.hiroyoshi.co.jp/ info@hiroyoshi.co.jp
TEL 0966-23-3759 / FAX 0966-23-3759

定価 540円 本体 500円

雑誌 81779-07-8



4910817790789
00500

最近のおもな出来事

- 6月16日(土)
 - ▽高校野球親善大会(川上哲治記念球場)
 - ▽高田宮杯2018熊本県サッカーU-15(17日、人吉市梢山多目的グラウンド)
- 6月17日(日)
 - ▽人吉・球磨「音楽歌謡フェスタ2018」(人吉市カルチャーパレス)
 - ▽第46回球磨郡青年団協議会体育会(あさぎり町深田・高山総合運動公園)
 - ▽人吉くま映画文化協会・第106回名画会「美しい夏キリシマ」(あさぎり町深田せきせい館)
- 6月20日(水)
 - ▽ポット・ブリー真理予展(26日、ひとよし森のホール)
- 6月29日(金)
 - ▽人吉労音例会「TAKAKOシャンソンライブ」(人吉市カルチャーパレス)
 - ▽劇団とんぼ座公演(30日、人吉市・華の荘リゾートホテル)
- 7月6日(金)
 - ▽「お下の乱」追悼式(人吉城歴史館)
- 7月8日(日)
 - ▽おごん達も応援団 第8回東日本大震災・第3回熊本地震復興支援チャリティーショー(あさぎり町須恵文化ホール)

7月(第28号) 目次

- 食べ処さかもと鮎やな 新装開店…3
- 駅・ものがたり²⁸「湯前駅」松本晋一…10
- 石橋を訪ねる 特別編「霊台橋」…18
- 「冠水とバック・ウオーター」…20
- 柳人があじわう漱石俳句²⁸ いわさぎ楊子…21
- 「あがつ段」上杉芳野²⁵…22
- 山に行こうよ!¹³「枳形山」…24
- 建築²³「八代神社をあるく」森山学…25
- 漢和字典は面白い¹¹ 鶴上寛治…37
- くまがわの神さん仏さん²³ 宮原信晃…38
- 記憶の落ち穂²⁷ 坂本福治…41
- 「貨幣時代の終了」上村雄一…42

7世代先の森づくり

水上焼畑の会 平山俊臣…4

麦島勝の世界

- 親子…29・家族…30・祈り…32
- 「球磨川を撮り続けて」麦島勝…33

今月の一言

『文読む月日』

(レフトルストイ編著 北御門二郎訳) より

人々が長いこと論争している場合、それは彼らが論争している事柄をよくわかっている証拠である。(ヴォルテール)

表紙写真

実りの秋に向けて泥んこあそび

(人吉市東間上町で)



人吉市の岩屋熊野座神社近くにある東慶治郎さんの田んぼで6月8日、恒例の泥んこ遊びがあった。市内のひまわり保育園(松本美恵子園長)が毎年行っている行事で、田植え・稲刈りなどを経て収穫までを体験する。

撮影/松本学(編集部)

医食同源¹⁷「体の健康と心の健康」浦川春加…44

「備前牛窓の者」上村雄一…46

くまがわすじの考古地誌²⁰ 木崎康弘…48

木崎考古学と遺跡⁵「有佐大塚貝塚」…52

天草の「五足の靴」³ 富永和信…56

「荒瀬ダムと瀬戸石ダム」⁴…58

老いらん道中⁴ 片岡和紘…60・大野征子…62

方言を味わう²⁴「稻留三郎の世界」前田一洋…62

「ハンマーの男」久馬俊…64

「自然災害対策の基本」上村雄一…66

倉敷便り¹⁹「津軽紀行」原田正史…68

「あなたの人格はどこから」武井京子…71

マイ・文庫本「代金百枚」白城松男…72

小説・相良清兵衛⁷ 山口啓二…74

鶴鶴短歌会 六月詠草…78

外来語から学ぶ英単語²⁸ 藤原 宏…79

ひろしのげっかん・ぎひょう…79

くまがわ学習塾¹⁹…80

今月の秀句¹⁷ 永田満徳…81

いもご短歌会…82

前号「くまがわ学習塾¹⁸の答え」…87

おっとわつとあすび¹⁸ 松舟博満…87



本誌の
取扱店舗

■清藤書店 ■ブックスミスミ ■明屋書店 (錦店・免田店・多良木駅前)
■道の駅さかもと ■TSUTAYA 八代松江店

終わった人

東京大学を卒業し、有名銀行に就職し40歳代で本社幹部候補になったものの出向・転籍を命じられて従業員30人の子会社の専務取締役に就き63歳で定年を迎える。そのような人物がいたとする。その人物は定年時点でのどのように評価されるのであろうか。少なくとも「終わった人」とは見なされないのであろう。63歳は若手ではないにしても高齢者ではない。少子化社会は63歳の人物を労働力として要求する。企業への再就職を期待するだけでなく、地域活動の担い手になって欲しいと願う。東大卒ならばいつそうそうで、当人がそれを嫌い、悠々自適の年金生活を夢見ても社会がそれを許さない。定年後は趣味に生きると決心していても、なかなか、「東大出」でもそうはいかない。それどころか、「億総活躍社会」という不気味なスローガンすら吹聴されている。それほどに社会は逼迫しはじめている。「億総活躍社会」は死語になったのではないか、との声もあるけれども、人手不足状況は深まっているのであって、大半の人は「終わろう」にも「終われない」。

日々の天候を気にしながら生活している小さき者としては、目の前の生活をいかに楽しく過ごすかだけでも苦労し、それができれば夕方から焼酎だ。そうした生活が社会に貢献しているかなど考えることもないし、その余裕もない。「活躍」しると命令されなくても「活躍」させられている、それが現実だ。まもなく始まる甲子園大会での声援も「活躍」のひとつで、「終わった人」などと達観する余地はない。

小さき者としては美しく枯れていきたいと願うが、それが難しい。枯れた花とドライフラワーは違う。「終わりがけた人」と始まった人はもつと違う。「始まった人」に声援を送り続けることがドライフラワーになる道かもしれない。まさか、即身成仏がドライフラワーということはあるまいが、そこまで修行しないと駄目なんだろうか。

(春秋)

7月14日、新装開店



道の駅坂本の中庭の施設（上）とメニューの一例（下）



塩焼、田楽、甘露煮、セコシなどの鮎料理の定番のほか、唐揚げなども楽しめる。すぐ横を球磨川が流れているのも魅力のひとつ。

食べ処 さかもと鮎やな

八代市坂本町

同店は昨年オープン。多数のお客様さんが詰めかけ賑わった。荒瀬ダム撤去にともなう、地域再生事業のひとつとして注目を集めているなか、ますますの出発になった。

今年、場所を移し「道の駅坂本」の中庭内施設での営業になった。座席数も48席から80席へ大幅に増やした。

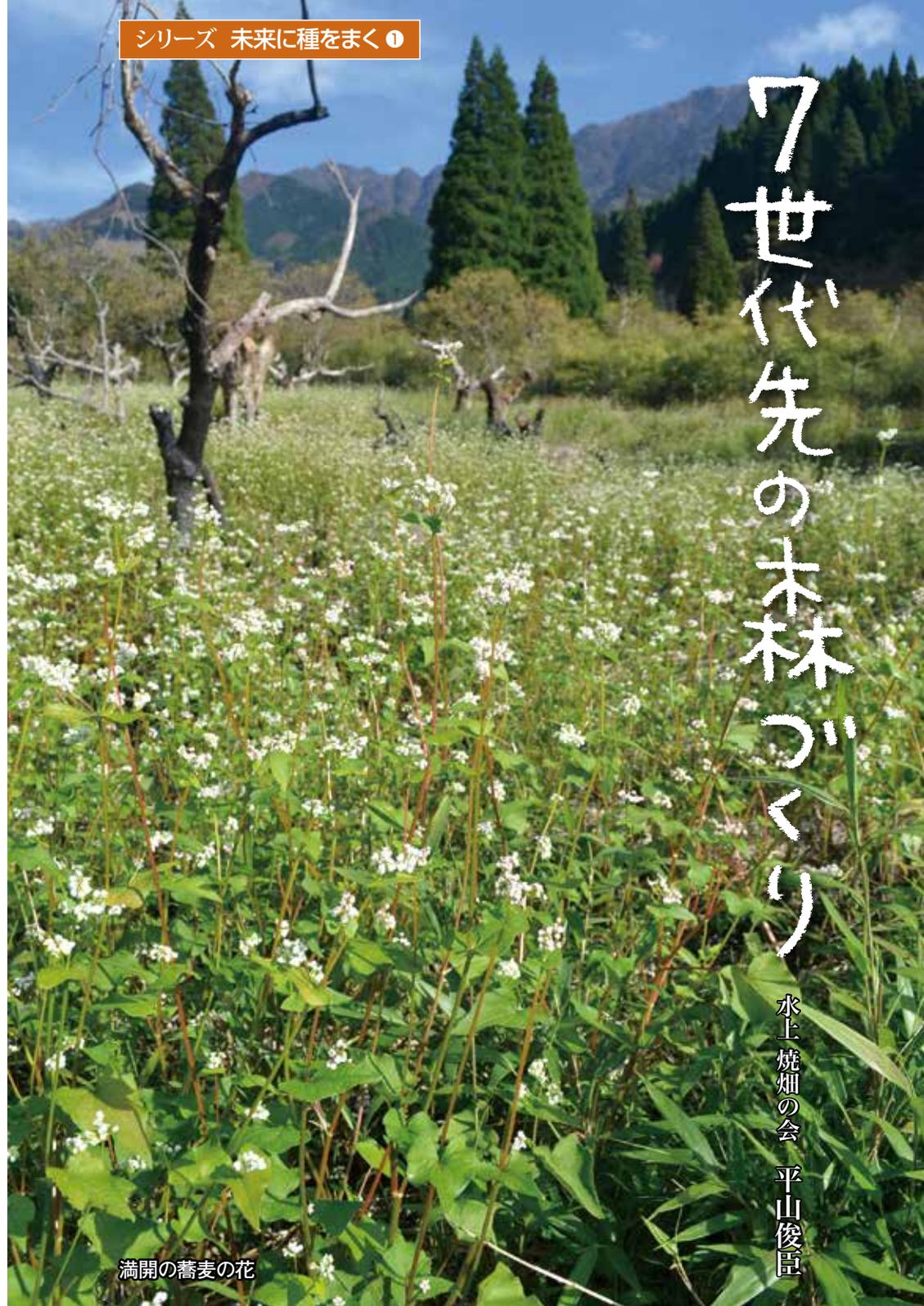
■温泉クレオンも営業再開
5月半ばより施設保守のため休業中であった同町の温泉施設・クレオンも同日、営業を再開した。



営業を再開したクレオン

7世代先の木林づくり

水上焼畑の会 平山俊臣



満開の蕎麦の花

はじめまして

球磨川源流域、水上村湯山で焼畑を始めた。2015年8月のことである。私たちは焼畑は、秋冬作物を育てた後、春には木を植える。耕作放棄地を豊かな森に還してゆくというとりくみなのだ。海が元気になるような森になりますように。気の長い楽しみだ。「水上 焼畑の会」と申します。

キツカケ

始めたキツカケは椎葉村の焼畑体験（2012年〜）だ。「山が荒れれば、海も荒れる。山は海の友達、そして恋人」と大先輩から教わった。山、川、海へと繋がる「焼畑」と、未来に繋がる「森づくり」。どちらもとても魅力的。一方、収穫感謝祭で味わい尽くす「焼畑蕎麦」。

植樹祭の様子



これは格別の美味しさで、毎年の楽しみなのだ。

会の動き

大人子ども合わせて30〜40人位だろうか？ メンバーは不特定多数。職業、年齢、出身地も見事にバラバラ、多種多様だ。「多くの命を育む豊かな森を、次世代に繋げるための活動」を主に、焼畑、感謝祭、植樹祭、イベント出店なども行なっている。仲間は常時募集中。どんなもどうぞ。是非一度、遊びにおいでくださいませ。

蕎麦脱穀作業





今年の焼畑

4回目を迎える今年の焼畑は、8月16日前後に行う予定。天候によって、直前に日程の変更が生じる為、参加できればラッキーだ。

参加、手伝い、見学大歓迎。その場合は事前の確認を忘れずに。今年は、約1.5反の耕作放棄地に火を入れさせていただきます。そろそろ圃場の生き物たちにも避難勧告をしておこう。



種をサシく

午前中の火入れの後、昼食をはさみ、午後にはまだ焼け残りがくすぶる大地に蕎麦や大根、蕪かぶなどの種をサシく。すべて風土に根差した貴重な在来種だ。代々自家採種されてこられた方から種をお借りし、増やしたのものもある。だいじな種たちなのだ。



背景写真
椎葉在来あわ

祈り

「祈り」が単なる迷信のように思われていたのは、ほんの少し前のこと。現代では、祈りの効果が科学的にも証明されつつあるようだ。

私たちは「祈り」の力をもっているのだ。命溢れる世界一美しい球磨川。その流域に住む生き物たちが、いつまでも平和でありますように。



これより このヤボに火を入れ申す

へび、ワクド（蛙）、虫けらども

早々に立退き給え

山の神様、火の神様、

どうぞ火の余らぬよう

また焼け残りのないよう

御守りやっつて給わり申せ

（椎葉村焼畑 火入れの祈りの言葉）





未来へ

「7代先の子どもたちのために、今何をしなければならぬか考えて行動する」とはアメリカ先住民、インディアンの考え方だ。私たちの取り組み「7世代先の森づくり」の所以である。

今から150〜200年後、どんな山、川、海になっているのだろう。私たちの住む球磨川流域がより美しい環境になるよう活動を続けてゆきたい。

とりくみを応援してくださる方、賛同してくださる方々、是非お立ち寄りくださいます。どうぞよろしく願っています。

【参加募集のお知らせ】

今年の焼畑に参加してみませんか？ 開催日の決定、変更等のご連絡、及び当日のインフォメーションなど、詳しい情報はフェイスブック「水上 焼畑の会」にてご確認いただけます。

問合せ ● FaceBook 『水上 焼畑の会』
● 代表 / 阿部雅弘 0966-46-0478



球磨川の駅・ものがたり

河口から上流まで、その駅を訪ねる



連載その28 くま川鉄道・湯前駅
熊本産業遺産研究会 松本晋一



市房岳遠望

新鶴羽駅を出た路線は、蓮花寺・鶴羽と第1・第2中里の4つの踏切を通り、国道219号線とほぼ平行して直線で進む。ここからの市房連山の眺めもまた格別である。中里第1踏切を過ぎると次第に湯前の街中方向へ右カーブを切りながら進む。春には線路脇のツツジが咲い

て、駅構内手前300m付近からお客の目を和ませてくれる。当初、線路は現在地よりも球磨川に沿って延伸の予定であったが、当該地区の鉄道路線反対もあり、やむなく東進、現在地へ確定したとの古老の話が残っている。そのことは赤坂地区辺りから路線が東へカーブしていることから推測される。

湯前駅

湯前駅は、くま川鉄道（旧国鉄湯前線）の終着駅。開業は鉄道省時代の正13年（1924）3月30日。しかし、ここは湯前線開業当時の予定では、宮崎県の妻線を結ぶ日肥線の一駅として策定され、終点ではなかった。戦後、昭和24年には国鉄（日本国有鉄道）管轄

の駅となり、さらに路線の存続問題も起こり、平成元年10月1日、人吉球磨地域が統括する第三セクターくま川鉄道管轄の駅となった。今年で駅開業から94年目、くま川鉄道運行開始から30年目を迎える。駅所在地は球磨郡湯前町字上牧原1760-3。起点の人吉温泉駅から13番目の終点駅で所要時間は約55分、全区間距離は24km



1番ホーム（西側 人吉方面）

九州では3番目の海拔1722mの市房山までは駅から19kmの距離にあり、週末土日は駅前から5本の市房登山口行きのバスが出ています。近年、2km先の野中田地区には新しく町営の湯楽里温泉が湧出、20年が経過した。駅の標高は188.9m、人吉駅が106.6mなのでその標高差は82.3mとなる。現在駅は相対式ホーム



湯前駅と周辺航空写真（右手は貯木場 昭和57年）

2面1線の駅であるが、従来は1面複線の駅で、かつては駅の東側に営林署の貯木場があり、貨物用引込線も数本あり林業が盛んであった。昭和57年の湯前駅周辺航空写真にもその様子が伺える。

駅本屋は木造平屋瓦葺きの駅。今は壁を白く塗り替えられているが、ほぼ開業当時の様子が残っており国の登録有形文化財の指定（平成26年12月）を受けている。



現・湯前駅本屋

その後の古レールによる四隅の補強（1908年＝明治41年、八幡製レール）は、恐らく駅舎完成後の昭和3年頃（駅職員記念写真時期）と思われる。



開業当時の駅

現在（上）と当時の写真（下）とを比較すると、旧木造駅舎には右手に改札所があり、左手には物置と水瓶、駅職員の夏服の白さが目立つ。今では改札所は撤去さ



昭和初期の駅職員7名
（レール支柱補強頃?）



駅舎四隅の古レール支柱補強

れ、待合室となっているが、正面玄関や窓枠位置はそのまま。玄関横の人力車と乗客のカンカン帽がその時代を憶えさせる。古写真では構内に列車も見えるが、開業当時は首長の煙突機関車（恐らくはB6、2120形）が短い客車を引き、2等は緑、3等が赤のシートであったと言う。その後、機関車は

8620形に変わっている。

開業時の湯前発上りは午前2本、午後3本の計5本、熊本発の下りは午前3本、午後2本の計5本の運用であった。戦後のジーゼルカーによる運用は昭和26年12月に開始されるが、SL機関車「8620形」の運用は当駅で起きた貨車流転事故（昭和45年11月15日）の直前までなされていた。

開通2年



駅名標と乗換、名所案内標が並ぶ（昭58.2.3福）



国鉄バス（人吉行昭56.7.11福）

後、大正15年の新鉄道旅行案内には、駅勢…旅客よりも貨物本位の駅で、将来この方面に大いに有望であ

る。1日平均の乗客数896人。交通…駅から東水上村へ自動車、馬車の便がある。見るべきところ…生善院（猫寺）、旅館…丸屋、富士屋、真砂（いずれも駅付近、1円50銭～3円）、名物…猫寺煎餅（1箱10銭）、球磨焼酎（二升1円10銭～1円30銭）との記載があり、市房神社や猫寺参詣など、季節ごとの行楽客も多かったようである。

同じ大正15年には上里地区に、洋風建造物で登録有形文化財の明導寺本堂（浄土真宗）も造られた。現駅ホームの名所案内板には、市房山、城泉寺と相良三十三観音のうち、24番～27番の5観音が紹介されている。国鉄時代のホーム案内板には「のりかえ 国鉄バス」として、村所・妻・宮崎方面他の案内



駅周辺航空写真(昭43) ①駅 ②貨物ホーム
③引込線 ④染田踏切 ⑤引込線終端



駅出し荷物札(日本通運用)



④旧貯木場



正面が引込線終端方面(日肥線延長方向)



染田踏切と奥の引込線終端跡
(昭47.12.8福)

戦後、球磨川上流の水山村に、湯前線建設と同じく西松建設の手で、昭和28年から7年の歳月をかけて市房多目的ダム(灌漑、洪水防止、発電)と県営市房発電所が建設された。ダムの資材輸送にもこの駅の役割は大きく、貨物本位の駅の上の湯前町史の駅周辺航空写真の引込線配線位置でも分かる。

平成4年には、この駅周辺の引込線、旧貯木場の跡地他を利用し、地元出身の漫画家那須良輔氏にちなむ、まんが美術館



正面入口

があり、戦時下の昭和19年、本駅前から妻行きの省営トラック、後に国鉄バスが運行されたが平成8年に廃止。今は西米良村営バスが本駅と村所を結んでいる。

駅の玄関を入ると、左手に旧出札口と自動券売機、待合室には球磨工業生徒製作の木製机と椅子が



左手の旧出札所

ある。懐かしい金属パイプ製の改札口から1番ホームに出ると、右手の柱には安産祈願の潮神社にちなむ潮の鐘、夫婦円満の賽神社にちなむ賽の鐘、後壁にはそのご利益を願う祈願札が多数下げられている。

この駅は昭和49年9月まで貨物取扱いがなされており、湯前合同



祈願札、潮・賽の鐘(1番ホーム側)

運送株式会社による日通便の駅出し用荷札が残っている。また湯前町史(昭和43・11)には貨物駅と引込線、貯木場や資材庫の在る航空写真が見られ、林業製材業の盛んであったことが良く判る。

や町営図書館、また駅構内には木造の多目的イベント広場「レールウイング」が造られた。

昨年には尾田栄二郎氏の描く人気漫画「ブンピース」のキャラクターラッピング列車を運行。10月にはホーム脇に同じく木造のまんが図書館とカフェ、体験施設がオープン



湯前線の現終端と交流センター（左）、まんが図書館他（右）

ン。駅周辺施設の再整備がなされ、駅横のふれあい交流センター「湯」とびあ」と並んで今後の活用が期待されている。

駅前からは九州産業交通の定期バスが市房登山口方面（平日7便）、古屋敷方面（平日5便）へ連絡している。球磨川の水源は江代山の北西



引込線跡（逆方向・湯前駅方面 福）

で、古屋敷行き終点の「柳原」バス停から源流橋（水源入口）を経由し、約20kmの道程である。ダム開発以前の昔、下の古屋敷から筏を組み、人吉の新馬場へ流したという。

今も古屋敷からの朝1番上りバスには数人の学生らが乗り込み、この駅で乗り換え、くま川鉄道で人吉方



湯前まんが美術館

面へと向かう。また列車とも競合する人吉方面行の定期バス（木上・西村方面）は平日1日25本がここから発着する。左の写真は昭和30年当時の観光案内（蔵座商店横）と現在の駅前。

今も駅前には旧旅館、食堂など旅客関連の施設が見られ、駅から街中へと数本の放射状の通りが国道から先



市房県立公園観光案内（昭30頃蔵座商店横）



駅前旧旅館街とバス停（左端が旧蔵座商店）

里宮通りへと抜けている。現在も国道に沿って商店街が栄えてはいるが、昔は市房ダム、一ツ瀬ダム、横谷峠の工事等で人口は1万人以上と多く、町内には娯楽の吉見座（後の湯前東映）、共楽館、世界館など3カ所の常設映画館で賑わった。

〈参考資料〉

・新鉄道旅行案内 大正15年5月 評論社の評論社

・球磨郡教育支会「球磨郡史」昭和16年8月

・市房白書 昭和32年2月 熊本県

・湯前町史 高田素次著 昭和43年11月

・西米良村史 同編さん委員会 昭和48年10月

・地理巡検「球磨地方の自然と生活」村田公三郎著 昭和52年2月 協和印刷

・「空から見たくまもと」熊本県航空写真集82 昭57・11 ワールドジャーナル

・宮本常一編著「川の駅」八坂書房 1987年11月

・湯前線沿線地域振興調査報告書 平成元年3月 熊本県

・平山謙二郎編著「熊本の駅と港」27 昭和58年5月 熊本日日新聞社

・熊本日日新聞社編 各駅停車全国歴史散歩「熊本県」昭和58年河出書房

・前山光則編「目で見る人吉・球磨の1000年」2001年郷土出版社

・盆地を走る駅シリーズ14「湯前駅」平成21年5月25日 人吉新聞

・みどころ紹介NO205「湯前駅舎」平成22年11月2日 人吉新聞

・前田一洋編「球磨・人吉今昔写真帖」2011年郷土出版社

・報道資料「くま川鉄道関連施設が国の登録有形文化財（建造物）」平成26年7月14日 人吉市総務部自治振興課肥薩線世界遺産推進室

・第9回球磨川アカデミア抄録集「映画今昔その楽しさ」平成27年10月

・人吉・球磨地域公共交通網形成計画 平成28年3月 人吉市他ネット資料

・ウイキペディア他インターネット資料

聞き書き…椎葉静子氏資料提供…福井弘氏 湯前図書館

（次号で完結予定）

霊台橋



石橋を訪ねる 特別編

美里町清水—豊福

全長89・86m、幅5・45m、高さ16・32m、経間28・4m。弘化



4年（1847）完成。石工は種山石工の名匠・卯助、宇市、丈八など。協力した地元の農民などの数を加えると述べ4万3967人が工事に参加した。種山石工の最高傑作のひとつ。国指定文化財。緑川水系の石橋であるから「シリ



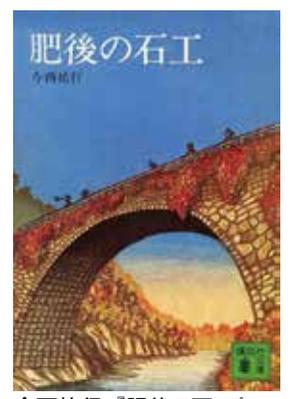
ズ特別編」として紹介する。予想以上に短期間で完成したことから、中国文王の霊台（物見櫓）建設の故事にならない、惣庄屋・篠原善兵衛がその名をつけた。旧浜町往還船津峡に架橋されたことか



ら「船津橋」ともいう。明治以前の石橋としては日本最大で、あまりの難工事に心労が重なり、卯助は二度と石橋をつくらなくなったという。7年後、宇市、丈八は通潤橋の建設にたずさわるが、卯助の名前



はそこにはない。卯助、宇市、丈八は、石工嘉八の子。林七の孫にあたる。丈八はのちの橋本勘五郎。このとき25歳。丈八が橋本勘五郎を名乗るのは通潤橋完成以降である。今西祐行『肥後の石工』（講談社文庫）は、岩永三五郎が霊台橋の建設に参加したとしているが、史実ではない。（編集部）



今西祐行『肥後の石工』（講談社文庫）

川の基礎知識

冠水とバツク・ウォーター

6月20日11時頃に瀬戸石ダムは3051トンを放流した。この放流量の場合、道路の一部が冠水する。洪水の恐れがあるときにはダムは「事前放流」を実施し水害発生を危険を

回避すべきにもかかわらず、現時点では「事前放流」の考え方は採用されていない。自然流下と異なり、ダム放流による水量の増加は予想できない災害を発生させかねない。水の

流れについての研究はそれほど進んでいるわけではない。それは別にして、水量の増加は水位を高くし、低い地域を冠水させる。

瀬戸石ダム下流の場合、これまでの経験にしたがえば、八代市坂本町瀬戸石・明神谷地区が水量2500トンで、同坂本糖尻（新開）が同3000トンで冠水する。問題は、冠水だけにとどまらない点にある。支流の水位を超える水量が流れると、本流の流れが壁になって支流の水が流れず上流側に水を押し上げる現象（バツク・ウォーター）が発生し、支流の上流域で水害を発生させる危険がある。本誌16号31頁では、瀬戸石ダム上流のバツク・ウォーターについて説明したが、同じ現象は同ダム下流でも生じる。（春秋）



6月20日11時頃の八代市坂本町糖尻（新開）付近。この地点は支流・油谷川（鮎婦川）の河口で、本流の水位が高いときには油谷川の水位も上昇し水害を発生させる恐れがある



柳人があじわう漱石俳句

— 28 —

いわさき楊子



— むつと鳴き ぐさど刺す —

叩かれて昼の蚊を吐く木魚哉

漱石28歳

お彼岸や盂蘭盆会などは人の出入りが多い。しかし何もない日は静かな本堂である。夕方の御勤めどきに、叩かれた木魚から驚いた蚊がブーンと飛び出る。おかしみと平穏さが同居する。

独居の帰ればむつと鳴く蚊哉

漱石29歳

蚊はブーンと鳴くものとおもっていたが、「むつ」という表現に思い当たるふしがある。「おう帰ったか」と言っているようだ。独り居の寂しさがつのる。

夏瘦の此頃蚊にもせられず

漱石28歳

俳句を始めてまもないころの句。蚊もおいしい血気みなぎる身体を好むらしい。瘦せた身体は蚊にも刺されないと嘆く。網戸のない明治の世にはもう生

きられない。

鳴きもせでぐさと刺す蚊や田原坂

漱石30歳

田原坂はいわずとした西南戦争の古戦場。現熊本市植木町にある。草や木々の生い茂る田原坂での戦いを、勢いのあるやぶ蚊にたとえて詠んでいる。まるで刀で刺したときのような「ぐさ」という表現が血なまぐさい。

秋の蚊の鳴かずなりたる書斎かな

漱石40歳

この句は漱石が東京朝日新聞社専属の作家になって、初めての新聞連載「虞美人草」の掲載が終わったころの句。安堵と静かな晩秋を重ね合わせて読むことができる。

たたかれた昼の愚痴吐く立ち飲み屋

たたいてはテレビを直す父でした

蠅たたくオール電化にしてからも

【いわさき楊子／川柳と俳句の愛好家、熊本市在住】



兄妹のように接していたいとこの還暦祝い

兄ちゃんには写真を大きく引き伸ばして額に入れて渡した。兄ちゃんは

姉ちゃんも喜んでくれた。

姉ちゃんも喜んでくれた。

姉の八代の美恵子姉ちゃんにも送った。

真屋さんに焼き増ししてもらって、私

ちゃんばいねと思われて、その写真を写

を指して教えてくれたので、これが母ちゃんばいねと思

て来て兄ちゃんに見せたら、「これが母ちゃんばい」と指

を指して教えてくれたので、これが母ちゃんばいねと思

を残した母ちゃんの死に直面して、どんなにか言いようのない苦しい胸の内だった

に悲しかった事だろう。父ちゃんだつて3人の子供

に目を付けた母ちゃんが亡くなり2人共に本当にどんな

に悲しかった事だろう。父ちゃんだつて3人の子供

きたけど、母ちゃんが死んだ時、兄ちゃんは小1だっ

たから、知らぬが仏で母ちゃんの顔を知らずに過ごして

いたらしい。母ちゃんが死んだ時、私は1歳1ヶ月だっ

たから、知らぬが仏で母ちゃんの顔を知らずに過ごして

茶やごはんをあげて、毎日母ちゃんと思つてお参りして

【うえすぎ・よしの／ボランティア 観光バスガール、あさぎり町上】

だから私は母の分まで人々に笑いと元気を届けた。

母ちゃん産んでくれて本当にありがとう。

命の尊さをみんなで大切にしてほしい。

死にたくなくても死ななければならぬ人もいる。

他の人を指ささず、母の姉である八千代おばさんを指

さしたのは、やはりかすかに母の面影を覚えていてく

れたからだろう。

兄ちゃんが写真を見て、

りした。

実は私の本を出版する時に、母ちゃんの写真を入れた方が良くだろうと思って



上杉芳野の「あがつ段」②

あれは私の母ちゃんよ。エーッホント？



今は亡き母(左)と、石本みつ子さん

私の3人しかいないとこたちは、私にとつて、とても大切な宝物だ。

1人は数年前に亡くなり、残ったのは2人だけ。その内の1人は広島にいて80歳になる早苗ねえちゃん。今は老人施設に入っている。

昔から妹のように私を可愛がつてくれた早苗ねえちゃん

に、私の本を贈ってあげた。するととても喜んでくれて自分の携帯電話から電話をくれた。さすがに都会の人。

「芳野ちゃん、ありがとうね。球磨弁で書いてあったので懐かしくて、そうそうそんな事もあったと、いろいろ思い出して、おかしかったり悲しかったり。泣いたり笑ったりしながら読んでよ。だけどね芳野ちゃんに言うた方が良いのか迷ったけど、やっぱり言うた方が良いと思つて言うね。あんたが紹介していた写真の女性は、あんたの母ちゃんじゃなくて、私の母ちゃんよ。」

「エーッホント？」。私はビックリした。「あれはね、私の母ちゃん

が人吉の愛甲産婦人科に看護婦として働いていた頃に花見の後に写ったとよ。

まだ嫁入り前だったそうよ。私はそれを母ちゃんから聞いていたので覚えとるよ」と聞き、驚き、ガック

山に行こうよ！ 柘形山

その⑬ 「人吉球磨ハイキングクラブ」 通信より 球磨郡五木村 標高 1085m
2018年4月1日 天候：晴れ 参加者：9名



参加者9名。柘形山頂上にて

9時15分、「道の駅・五木」の近くから山に入った。落ち葉が深く積もった雑木林の中を上る。つま先上がりの急傾斜が足首に応えた。およそ15分後に尾根に着いたときには、かなり体力を消耗していた。尾根の向こうには、今を盛り



ヤマシャクヤク

咲き誇っているヤマザクラに彩られた美しい景色が広がっていた。さらに急登が続いていた。4合目あたりに「岩戸へ」の案内板があったが、ここはパスして頂上を目指した。10時45分、5合目に着いた。岩の間にヒトリシズカがひっそり咲いていた。なんともおおくゆかしい名前に嫉妬する。尾根を包む冬枯れの木立にはもう若葉が芽

吹き始めていた。8合目付近には、ヤマシャクヤクの群生地があったがまだ蕾は堅かった。この山には新緑かヤマシャクヤクの花に合わせて登るのも良いかもしれないと思った。12時15分、やっと頂上に着いた。南側に展望が開けていた。天気恵まれて、正面に上球磨盆地が見える。左には市房が霞にけむっていた。日陰を探して弁当を食べる。本石さん手作りのコンニャクが旨かった。

13時、下山を開始した。急な斜面を転ばないように慎重に下る。15時30分、無事登山口に到着した。道の駅からは楽な山に見えるが、意外にきつい山であった。

【段村善昭】

建築みてある記 ⑳

八代神社をあるく

森山 学

八代市民から「妙見さん」と呼ばれる八代神社は、白鳳九年（六八〇）に上陸した妙見神をお祀

りするため、上宮（延暦十四年〓七九五に創建）、中宮（永暦元年〓一二六〇に創建）を経て、文治二年（一一八六）に現在地に創建された妙見下宮である。八代の総鎮守として人々から崇敬され、その門前には八代最初の町が広がった。

八代駅からバスで六分程度、バス停「宮地」で下車すると目の前である。国道3号線から斜めに入り東へ進む道が、八代城下町が現在地に移転したあとの新参道である。御霊神社の裏から、西宮橋、宮地橋、盛高鍛冶刃物店、一乗坊跡の宮地コミュニティセンターや、神宮寺跡の宮地小学校

を經由する。この新参道に沿う水路は水無川から引き込まれたもので、宮地和紙の職屋のあった一帯では、この水路を紙漉きに利用してきた。八代神社の鳥居前から、この水路を横切り、まっすぐに水無川の砥崎の河原へと進む道が旧参道である。砥崎の河原は八代妙見祭の神幸行列のクライマックスを迎える場所である。

旧参道と水路が交わるあたりに、かつて手洗舎があった。参拝前の手水はこの水路を活用していたようで、今でも一段低く洗い場が残る（写真①）。この手洗舎は安政四年（一八五七）の建築であり、いまは鳥居左手に移築されている。渡来の際に妙見神を乗せてきたとされる伝説の亀蛇（きだ）を、ここで発見することができる。まずは柱や虹梁な



写真① 旧参道横の水路（手洗舎の跡）



写真④ 社殿全体

かれた本殿は流造であった。江戸時代初期の八代城主・加藤正方が、小西行長統治時代に衰退した社殿を元和八年（一六二二）に再興したものである。この年は、地震により倒壊した八代城を、現在地に移転・再



写真② 手洗舎の亀甲文様

どに刻まれた亀甲文様（写真②）。妻飾りには波を渡る亀蛇。亀の甲羅をうねる蛇が縁取るという図案である（写真③）。さらに屋根の棟瓦や降棟瓦には亀蛇瓦がのる。ところどころの亀の甲羅には社紋の「丸に二引き両紋」が中央にある。軒瓦には同じく社紋



写真⑤ 拝殿の雲龍の海老虹梁

建したのと同じ年である。この流造の時代を経て、元禄十年（一六九七）に本殿が改築される。さきの解体修理でも「元禄九年」の墨書をもつ部材が確認されている。その後、享保九年（一七二四）から数



写真③ 手洗舎の妻飾り

の「九曜紋」。蟄股（カエルの姿に似た輪郭の部材）には当時の八代城主・松井家の「三つ笹紋」がある。拜殿前には門と回廊。元禄六年（一六九三）の「妙見宮知行宛神社山絵図」にも描かれている。そもそもこれらは一般的に、神仏習合の下、

度の改修を経て現在に至る。ところで八代市内の神社本殿はほとんどが流造とよばれる形式である。ところが八代神社周辺にのみ、入母屋造平入の本殿が、八代神社を含めて四軒ある。その影響関係は不明であるが、おもしろい。あらためて本殿を見てみよう。屋根は銅板葺きであるが、昭和四十一年（一九六六）までは檜皮葺きであった。建物の木部にはオレンジ色の丹塗りのほか、各所に彩色が施されている。建物の幅は三間あって「三間社」とよばれるものであり、向拝には四本の柱が立つ。外側の柱には象鼻と獅子鼻、中央側の柱には犀の木鼻がつく（写真⑥）。墨書から元禄九年の作であることがわかった扉は、あまり多用されないテーマで、八代市内ではこれを含めて三例のみである。角が一本、

寺院建築の伽藍に建築されたものが、神社境内にも築かれるようになったものである。「絵図」には、多宝塔など寺院の堂塔も境内に描かれている。さて社殿であるが、平成二十七年に保存修理工事が完工した本殿と、拜殿、幣殿からなる（写真④）。拜殿は入母屋造妻入。正面の向拝は、雲のたなびくさまを牙に見立てた象鼻、波頭の手挟、雲間を上昇する迫力ある龍の彫物があり、目を奪われる（写真⑤）。龍の彫物は、「海老虹梁」とよばれる部材で、海老の背中のように丸く盛り上がった梁であるが、これを龍のうねる姿に重ね合わせたのである。本殿は入母屋造平入で、正面の屋根には三角形のかたちをした千鳥破風がつく。ちなみに、さきほどの元禄六年（一六九三）の「絵図」に描

親子



「お昼どき」八代市坂本町（昭和23年）
撮影／麦島 勝（八代市立博物館未来の森ミュージアム蔵）

昭和23年（1948年）3月5日撮影の「お昼どき」という作品がある。麦島写真のもつとも有名なものである。なにを話しているのだろうか。カメラをまったく意識せず、母と子がお弁当を食べている。服装や弁当の型などに時代の様相が示されていて、そこにも魅力があるが、それだけでなく、時代を超えて、母と子の自然で微笑ましい姿が見事に写し取られているところにも惹かれる。この時、麦島さんは20歳の若者である。20歳の若者が貴重なフィルムを使って本写真を撮ったのであって、その感性に驚く。麦島作品を眺めるとき、こうした親子の写真が意外に多い。麦島さんの感性の反映の結果であろう。楽しそうな写真だけでなく、集団就職のように涙が出そうになる別離のときの写真もあるが、親子のつながりに注目している点では同一の感性のものにある。今月号では、親子を中心とする家族に焦点をあてて麦島作品を紹介したい。

（春秋）



写真⑥ 兔波の中備、犀の木鼻、獅子鼻、象鼻、龍頭の尾垂木など

硬い皮に樋爪のある足というサイの姿が、このように解釈されたわけである。千鳥破風には鶴の懸魚（妻の破風の頂点にある意匠材で、本来、防火のために魚を横したものの）。修復前は、鳥であることはわかるものの、風

化のため、もはや原型が不明瞭な彫物であった。今回、これを彩色して鶴とした。その下、虹梁を支える部分には、力神の彫物が、力強く屋根を支えている（写真⑦）。力神は左右の入母屋の妻でも、その力を発揮している。さて豊かな彫物群は、四隅の龍頭の尾垂木や、側面の小壁の虎や龍正面にはよく目を凝らして見ると、麒麟の臺股などを発見できる。向拝の中備（柱間の束）には、どこかの部材を転用したものと思われる、金の兎が目を引く兎波の彫刻がある。



写真⑦ 正面の千鳥破風



写真⑧ 本殿の縁側下

最後に見逃せない装飾が縁の下、花頭曲線を描く板にある（写真⑧）。まるで天使のような透かし彫り。猪目を表すハートに、懸魚のヒレと思われる天使の羽がつく。幸せなことが起きそうです。

【もりやま・まなぶ／高専教員、一級建築士、八代市】



「汽車の旅」肥薩線車中（昭和39年）
 撮影／麦島 勝（八代市立博物館未来の森ミュージアム蔵）

家族



「お昼寝」八代市松江町（昭和36年）
 撮影／麦島 勝（八代市立博物館未来の森ミュージアム蔵）

自衛隊から帰省した兄を八代駅に迎えに行つた弟は、嬉しそうに田んぼの細道を近道して家路を急いだ。



「お帰りー」八代市松崎町（昭和31年）
 撮影／麦島 勝（八代市立博物館未来の森ミュージアム蔵）



「おじさんの舟で登校」八代市坂本町今泉（昭和38年）
 撮影／麦島 勝（八代市立博物館未来の森ミュージアム蔵）

子供たちは、おじさんの舟で球磨川を瀬渡ししてもらい、小学校のある対岸まで登校した。昔は花嫁さんも球磨川を瀬渡ししてもらい、瀬渡しは大事な交通手段であった。

祈り

仕事から帰り、天主堂に娘を連れていき、今日の無事を感謝する姿を写した作品。娘を愛する父親と父親を信頼

している娘の関係を示す名作である。同時に、宗教心の有無にかかわらず、父（もしかしたら、祖父かもしれない）の祈りの姿は、それ自体、人の心をうつ。



「殉教の里」撮影／麦島勝
(八代市立博物館未来の森ミュージアム蔵)

る。先日、世界遺産に登録されて有名になったが、撮影当時（昭和26年11月9日～1951年9月8日）は、

どうであったか。潜伏キリスタンに対して、風変りなもの、珍奇なものに接したかのようにはみえていたのではなかったか。潜伏キリスターの住民がほかの土地の者をこのようにみてもどうか。警戒心をいなくことなく普段と変わりなくその者に接していただろうか。そうした事情についてはまったく不勉強だが、神に祈っている自らの姿をよそ者にみせる（せらす）ことはなかったであろう。祈りは神との交渉にほかならず他人（しかも、異教徒）にみせるものではない。

この写真は潜伏キリスターの資料としても貴重な一枚である。
(春秋)

球磨川を撮り続けて

第8回球磨川アカデミア（2016年10月25日～26日）

「熊本の写真を楽しむ、写真で語る」資料より

ミアの松本様の今回のご企画用の写真を探してみました。

麦島 勝

代の風景は彼によって切り取られることになった。時を経て、われわれはデジカメ付きケータイという道具を手に入れた。気軽に風景が写し取られ、たくさん瞬間が小さなチップにため込まれています。いつでも再生可能な時間の蓄積が出来ます。

画像を呼び出すたびに、脳内タイムマシンがわれらを「あの時」をいざなってくれます。

県内の道路網が整備され、気の向くまま、球磨川上流の景勝地へバイクで出かけた頃が幸福でした。腰も曲がり、老人ホームで妻は医師常駐の別の介護施設に居ますので、私は躰がいくつあっても足りませんが何とか頑張ります。

(2016年10月)

司馬遼太郎は街道を行くで「肥後から山越で薩摩に入りましょう。途中、日本でもっとも豊かな隠れ里だった人吉を通して」と書いています。

日本でもっとも豊かな隠れ里、それは球磨川に育まれた豊かで秘やかな何かで、鋭敏な作家はちゃんとそれをつかまえて帰ったに相違ありません。

半世紀以上、球磨川流域のいろいろを撮って来た私も、球磨川アカデ

風景を写し撮ること…それは時を絡め取ることです。写真機というのが発明される以前から瞬間の風景を何らかの形にして、永遠に留めておきたいと願ったのです。

かつては狩野派や琳派が屏風や襖絵に理想の風景を描き出し、庶民たちは北斎や広重の版画に旅への思いを重ねました。

やがて、長崎の上野彦馬から写真技術を学んだ富重利平さんが熊本に来てからは、この地の明治という時

木材を運ぶ匠たち

麦島勝

はじめに

山で「オーイ」と叫ぶとすぐ「オーイ」と返ってくる「こだま」(やまびこ)を聞いたことがありますか。声が山林に反射していたんでしょね。

球磨川の上流地帯は、急峻な山々が人の往来を遮り、悠久の年輪を刻む豊かな自然樹林の宝庫でした。

人の生活と深い関わりのある木材を伐る時には、選り伐りました。周りの木々の成長を思い、大きな木から順に程よく伐り、植林も行いました。

時空を越えて、斧がチェーンソーとなり、野猿が索道装置とか林業機械、木馬道がスノーパークとなる近代化に結びつけた「木材を運ぶ山師たちの技」

を皆さんと検証し、風化しないことを願っております。

時代背景と概要

明治以降に続く幾多の大戦に伴い木材需要が増し、鉄道や鉱山、製紙、繊維等の枕木、坑木、チップ材として木材の大量搬出の時代になりました。

斧と鋸で木を伐つても索道などの林業機械や道も無いに等しい非近代的な環境の中で、知恵を出し合い3Kと敬遠された危険もいとわず、綱と滑車を利用した野猿と云う装置で山から谷を越えて木材を吊り降ろしました。

また、山の斜面に張り出した木馬道を急坂が多い場所では後押し(ブレーキ役にも)と曳つぱり、先番が「ソーイ、ソーイ」と合図のかけ声を出しあつて運び、「もはや戦後ではない」と云われた昭和30年代まで続きました。

木材搬出の工程と内容

はつり

伐採・枝切り、皮むき、葉枯らし乾燥場所設置

作業前神事後、搬出に支障ない様搬路整備

伐採したら、重量軽減のため半年位現場で乾燥する

寸法長さに玉切り

木挽

搬出の重量軽減と安定のため木目により付加価値を考慮した墨出しと寸法どおりの厚みで大牙鋸で割く。現物では盤台(リング)が設置できない場合もあるが、註文主が柱目、本目の割合で墨出し確認

大牙鋸の目立てやソリの調整も施工
直径が100cm位なら左右から割

から発祥したのも頼もしいことです。

木馬出し

硬い丈夫な木で造られた櫓状の台が木馬と呼ばれ、その木ぞりに1トン近くの木材を積み、山道に沿って張り出して設けた木馬道を全身に力をこめて引く。

下りの木馬道は、まん中に突き出した一本の木材の先端に打った「かすがい」を握り、木馬道の地面に敷かれた枕木に片足を置いてふんばりながら、体重を後ろにかけて、木ぞりが勢よく滑り出さないように押さえ、慎重に下った。

雨や雪の日は後方に1〜2人の木尻(補助員)がつけられ、押ししたり、下りは綱のロープを引っぱり、ブレーキ役になり、かけ声をかけながら一番の指示に従い前後の連携をとり、

ていくが、2人が大牙鋸を引いた。

その際、気の合った者で作業した。鋸の現物を見たが30年位で歯の目立で10cm位、中の寸法が減つたらしい。木の硬さによる矢(楔)の入れ時が直線に割くコツでした。

野猿出し

現在の鋼製ワイヤーやウインチを使用した索道出しのこと

野猿(弋)とも云った綱と滑車を組合せ・木材を吊り降ろした。

ウインチのような機械の代わりの「カグラサン」と云う直径20cm位の檜丸太の根幹部(30cm位)のつづみの様な巻き取り器にロープ綱を2〜3回巻きつけて、その末端を固定する。次に床上1・2m



「木馬ひき」人吉市木地屋町(撮影年不明)撮影/麦島勝(八代市立博物館未来の森ミュージアム蔵)

熊本市には塚本索道と南星製作所が戦後いち早く林業機械を開発し、復興期の木材ブームと云う時代の波に乗り、近代的な集材システムを熊本

漢和字典は面白い

11 鶴上寛治

猥

卑猥・猥褻・みだら——私たち人間はそういう行為を日夜繰り返しながら、自ら愧じてだろう、けもの偏のこの漢字を作り出して、「俺たちには関係ないよ」と口を拭っている。動物たちは神様の指示に従って、ちゃんとそれぞれの発情期に事を行い子孫を繁栄させているが、人間だけは時を構わず、所を選ばず……たまには相手を選ばず？ 不倫と騒がれ……ええ、猥褻な書物・映像・実演を製作提供する業者もいる。隠れてすることだから希少価値があり、利益も大きいのだ。

婚

昏睡といったら〈深い眠り・意識不明の状態〉だが、昏酔は〈正体不明になるほどの酔い〉。昏倒は〈ただけだが、黄昏（たそがれ）〉ということばなど、なかなか情緒に富んだ表現だ。薄暗くなって（誰そ？彼？）の区別がつかない時間帯だ。「かわたれ（彼は？誰？）時」という言葉もある。日本語のすばらしいところだ。「昏」の字形は〈人の足許に日が落ちたさまの象形〉で、〈暮れ・くらい・くらむ〉そして〈子供が命名以前に死ぬ事〉も指す、とある。さて、結婚の「婚」である。

「女がへくらい〜？」——あなたはこの漢字をどう解する？ 男が、まだ前後の判断もつかぬ幼い女を……、あるいは女の方が何かに迷って、いつのまにか……？ それ「婚」？ いい年になった男女が、お互いに何もかもわかって……という結婚式には初々しさが欠ける——なんて勝手のことを言ってみよう。漢和辞典は明快に「結婚式が夕方に行われていたから」と書いている。そういえば、午前中の結婚式ってあまり聞かないよ。うだ。

【つるかみ・かんじ／人吉市】

事故がない様に命がけて頑張りました。そして、復路は木馬道の枕木を点検・補修の往復をくり返しました。

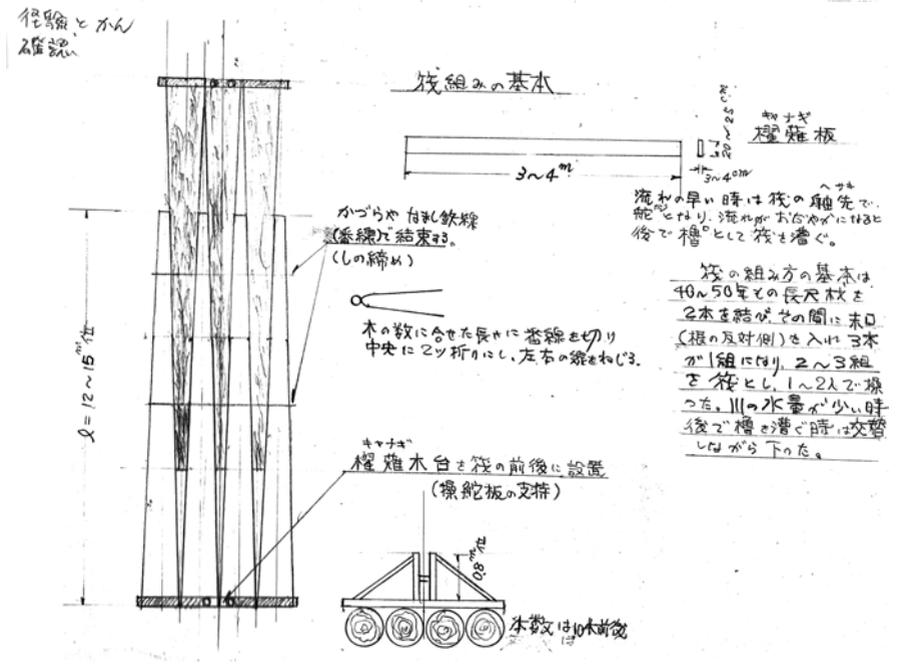
「修羅落とし」と「筏流し」

木を伐り倒すのも、それを運び出すのも前項でも同じ様に常に危険が伴い、一時でも気をゆるす事は出来ません。伐採した木材を運ぶには山が険しいか、どんな山道かで運ぶ人たちが違い、運ぶ方法も異なります。大きく分けると山内の運搬と、川を利用したいかだの川流しに分けられるのです。

運搬が総て手作業で人力で山内の運搬は山の状態を見て、山を滑り落とす「修羅」があります。

(2005年10月)

麦島さんが書いた筏組みの構造図



隠れ念仏の秘仏が来た (前編)

宮原信晃

昔々、薩摩の国に伊集院忠棟という島津家の筆頭家老がおられました。その忠棟さんは島津家の政務を取り仕切ったり、武将としても肥後(熊本)や筑前(福岡)へ攻め入っ

登場人物	
伊集院忠棟	(ただむね) 一島津家筆頭家老。秀吉に8万石をもらう
島津 忠恒	(ただつね) 上記の忠棟を惨殺した、後に薩摩藩初代藩主
伊集院忠真	(ただざね) 惨殺された忠棟の子供。父の死後、伊集院一族は都城にたてこもり庄内の乱を起こす

たりと大活躍のお方でした。天正15年(1587)、秀吉率いる大軍が薩摩まで押し寄せようとする時に自ら髪を落とし人質として秀吉に降伏し、島津家の存続を願い出て島津は許されることになりました。それから豊臣政権との直接交渉人となり日向諸県郡という8万石を天下人の秀吉からもらったのでした。人吉藩は2万石ちょいでしたから約4倍の広々とした領地ですね。そこは今でいう小林市、都市市、えびの市から志布志市までの広い領地。それだけ価値のある仕事をされたので

すね。

そんなとき薩摩の上層部の方々が「おどんたちは面白なか、あん人ばかりが良か暮らしばして許せんでごわす」と忠棟さんを国賊とばかりに、遠く京都は近見の島津邸で忠棟さんをバツサリ斬り捨てたのでした。慶長4年9月(1599)の事です。何とその犯人は後の藩主となる島津忠恒という若殿だったので。

さあ斬られた伊集院家は大騒ぎ。殿の敵討ちをせねばといきり立つ家臣達。

「まてーでごわす」と忠棟の長男、忠真さんがその騒動を止めた。

冷静になっていろんな人に相談し、考えたあげく伊集院の領地である都城で籠城することに。そうす、

徹底抗戦を選んだのですね。

都城は都之城を本城として12の外城があり、難攻不落の城としても有名であったようです。その伊集院一族は外城に八千の兵を分散し、今では親の敵、宿敵となった島津の4万の兵を向かい討ったのでした。

襲いかかる薩摩軍の攻撃にも耐えに耐えます。薩摩にいる伊集院の縁者による援助物資などを遮るために薩摩から都城へ向かう道は遮断され



秀吉からもらった諸県郡8万石

ていました。しかし加藤清正や伊東祐兵ら亡き秀吉の家来たちの横つながりの仲間達が密かに援助物資を届けていたのです。もちろん我が相良藩も、一番近い場所ですので大いに援助していたと思われれます。さて、この頃は秀吉亡き後(前年死去)、家康の天下になりつつある世の中に向かっています。この戦の仲介は家康が乗り出しています。乗り出すといつても九州の国で一番遠い場所であるために、出向きはしませんが、幾度も密偵や家康からの書状が両陣営に送られていたようでした。伊集院一族の守る数力所の外城が陥落し、和平へ向かいますが、やはり降伏という条件で戦いは終わりました。しかし、伊集院一族は耐えに耐えて1年以上も戦い抜いたの

時代背景

- 天正15年(1587年) 秀吉による九州平定。薩摩川内の泰平寺で薩摩は秀吉に降伏。伊集院忠棟、自ら人質となり薩摩の安堵を願う
- 文禄4年(1595年) 秀吉は日向諸県郡8万石を伊集院忠棟に与える
- 慶長3年(1598年9月) 秀吉死没、慶長の役終わる
- 慶長4年(1599年3月) 京都伏見は島津邸にて伊集院忠棟が惨殺される(同6月) 庄内の乱(伊集院一族、都城にたてこもり)
- 慶長5年(1600年3月) 家康の仲介で伊集院忠真、降伏(8万石の領地没収)
- 慶長5年(1600年10月) 関ヶ原の戦い
- 慶長7年(1602年10月) 上洛の途中に野尻にて父と同じく島津忠恒に伊集院忠真も殺害され同日伊集院の弟、母、家臣一族全て抹殺される

記憶の落し穂

その 27

絵と文／坂本福治



「ウス」と呼ばれた先生

高校一年の時の国語の先生は、「ウス」というあだ名で呼ばれていた。名前は「西倉基」。小柄で、親しみやすい印象。「徒然草」を、「徒然なか草」とも読まれた。「徒然なか」とは、当地では「ものさびしい」又は「ものたりない」という意味で使われる。

ある国語の試験の時、問題はあまり難しくなく、時間が余ってしまった。そこで、名物先生と見えるウス先生を、答案用紙の裏にこっそり描きはじめた。ところが、間もなく見つかってしまった。「彼は、わたしのスタイルば、きあとつです」と、テスト中に言われた。私は職員室に呼ばれるのではないかと、後悔の念でいっぱいになった。しかし、何も起こらずにすんだ。

何十年後に知ったことだが、西先生は西南戦争のことを本にしておられた。そして、また不思議なご縁。私は高齢者向けの水墨画教室の講師をしていたが、西先生の息子さんが生徒の中におられた。その妹さんも、別の教室で生徒だったのである。

【みかもと・ふくじ／画家、人吉市】

です。

もうそこには天下分け目の関ヶ原の戦いが直前に迫っていました。伊集院忠貞は降伏し八万石の領地を島津へかえし一萬石の領地となったのでした。

伊集院忠貞は肥後の加藤清正へ父の敵討ちのための力を貸してほしいとの書状を部下に渡し肥後に送りましたが何と、その部下が裏切つて島津家にその書状を渡してしまつたのでした。

それが元で加藤清正は謹慎の身の上となり上洛が出来ません。天下分け目の関ヶ原にも出陣できないようになつてしまつたのです。

さていよいよ最後の時がきました。慶長7年（1602）、島津忠恒は伊集院忠貞と一緒に上洛しよう

といつて旅の途中の野尻で伊集院忠貞を殺害しました。各所に人質として預けおかれた母弟、一族共々も同じ日に殺害されたのでした。そうです父も子も、島津忠恒に殺害されたのです。島津家とすれば筆頭家老であつた伊集院一家を全て滅ぼし、一件落着と安堵したのでしよう。確かに伊集院一族は薩摩の歴史の中から抹殺されました。

その抹殺された薩摩の地から、ある伊集院の家臣が秘仏を背負い暗闇に逃れたのです。

この続きは、また来月お話し致します。もんそう。

庄内の乱（1599.6～1600.3）

都之城を本城として忠貞が率いた12の外城の場所と家臣達

	城名	場所	家臣
1	梅北城	都城市梅北町	日置善左衛門
2	志和池城	都城市水流町	伊集院掃部介春成
3	安永城	都城市庄内町	伊集院五兵衛
4	野の美城	都城市野の美谷町	有田屋大炊く左衛門
5	山之口城	都城市山之口町	倉野七衛尉
6	月山日和城	都城市高崎町	比志島式部少輔義智
7	山田城	都城市山田町	長崎治部少輔
8	梶山城	北諸県郡三股町	野辺彦市
9	勝岡城	北諸県郡三股町	伊集院如辰
10	財部城	曾於市財部町	伊集院甚吉
11	末吉城	曾於市末吉町	伊集院兵部少輔忠能
12	恒吉城	曾於市大隅町	伊集院宗右衛門

【みやはら・のぶあき／FBお地蔵さん調査隊代表・人吉おおくま座の会事務局】

貨幣時代の終了

上村雄一

美味しい蕎麦を食べるために、山を焼き、畑をつくって蕎麦の種をまく予定です、との話をうかがったときは驚いた。椎葉村の友人から種をわけてもらうという、地域活性化のためには意表をついた行動が必要だといった下世話な話ではない。純粹に蕎麦を味わいたいという夢を聞いているような計画だった。

まじめそのものの顔で、私たちは蕎麦をつくります、上村さんは球磨川の河口で塩を造りませんか、山の幸と海の幸（塩）を交換しましょう。お金を通じた商品の交換は時代に遅れています。お金などなくても人間は生きていきます。楽しみも味わえます。これからは、元にかえって、物々交換の時代です、と楽しそうに、そのひとたちは話した。

日銀総裁が聞いたら卒倒しそうな話だが、提案を耳交換的な場面を思い浮かべると、たいいていの人は、そうなる。「地域活性化」的なものと、他人（社会）のため工夫する・努力するという意味合いがどうしてもつきまとうが、そういう嫌味はなく、「遊び」に近い感覚になった。

その話をうかがって5年以上が経った。ときどき、あのときの焼き畑のひとたちは元気にしているだろうか、蕎麦はできただろうか、塩づくりは、やはり、面倒だなといったシーンを発作的に思い出しては忘れていった。



蕎麦の花 (© 水上焼畑の会)

にしたとき、そのとき言葉にできない嬉しい気分になった。お金に向かつて南無阿弥陀仏とお礼をいう拝見主義（貨幣の物神崇拜）の蔓延を不気味に感じていたので、その人たちの話を聞いて、まともな人もいるもんだと安心したのであった。

荒瀬ダムの撤去工



八代不知火干潟 (© つる詳子)

事がすすみつつあるなか、ウォーキングを楽しみながら、そうしたことを話したのであった。一見すると、平凡な思いつきに見えるかもしれないけれども実現できないほどに馬鹿げた話というわけではなかった。

蕎麦と塩を交換する場面を想像し、「はじめ人間ゴーン」みたいでニヤリと薄笑いを浮かべ、ひとり満足していた。周囲の人には不気味だったろうが、いかにも物々

もちろん、その話は色々な人たちに伝えた。風変わりな人たちがいるといった感じで話すことが多かったが、そういう世界もあることを伝えたかった。昔風にいえば、道楽や数寄者のようにみえるけれども金銭を媒介にせず自己の労働を基礎にしようというのだから、すべてが気楽というわけではない。

焼き畑の人は平山俊臣さんたちであった。平山さんの原稿に接し驚いた、おもいもよらぬ原稿であった。

「7世代先の森づくり」。

平山さんたちのスケールは相変わらずでかい。でかいだけに、魅力も半端じゃない。日々の生活に一喜一憂せず、ドンと腰を据え、世の中の仕組みに取り込まれるのを拒否し、みずからが楽しいと思う生活を、自分のために、すごしたい、という姿勢はかぎりなく魅力的だ。

問題は、平山さんたちが本誌を手に取りられたとき、どういふ顔をなさるかだ。上村さん、塩を造っていますか、蕎麦と交換しませんかと指摘されそうで、複雑な気分になる。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】



梅雨の時期、実は体内にも湿気が溜まっていきます。溜まった湿気は毒素となって、様々な症状を引き起こしてしまいます。例えば、むく

過ぎていたかな？ ストレスに感じた事を我慢していないかな？ 自分らしく居れているかな？と何度も自問自答していく時間が必要です。な

みや便秘。これにはキュウリなどの緑の夏野菜をお勧めしています。梅雨時期に限らず、毒素を溜めるところに症状として現れてきます。

色んな症状がありますが、「疲れやすい」「イライラする」「急に泣きそうになる」など、心の健康バランスが乱れてしまうことがあります。基本、人は幸福に満たされているときは免疫力は上がり、気の流れるも活き活きしているものです。

しかし、体内に毒素が溜まるとその人の一番弱っている臓器に症状が現れてくるため、例えば自律神経に毒素が溜まってしまつと、判断力が鈍り、ネガティブな気持ちになつてしまいます。

ぜなら、病こそ、生き直すメッセージだと思ふからです。

心の調子が悪い時、身体の健康に気を使ってみる必要があります。胃に優しい温かいものを食べたり、ハーブティーなどのリラックス作用のあるものを摂ったりするといふと思います。食欲がない時は無理して食べない事です。少々食べなくても人間は生きています。

粗食に立ち戻り、自分の身体をリセットすることが、心のリセットも完了し、実にスッキリした気分で過ごすことができるようになります。

私は色んな食材をお勧めしたり、お勧めしなかつたりしていま

他にも胃が弱いと胃の病気に。肝臓に毒素を溜めている方はお酒が原因かもしれません。

生まれつき弱い臓器と、これまで自ら創り上げてしまった弱い臓器。そこに毒素は溜まり、様々な症状を引き起こすのです。

薬膳や五味五行で、意識を司る「気」、血流や血圧を意味する「血」、体内水分やリンパ液などの「津」。このバランスが大事だと言われています。

更に、「身心一如」という言葉があります。心と身体は一体である。という意味です。

身体の調子が悪い時、ネガティブに心配する前に自分(体)と自分(心)のお話し合い。最近何を食べ

すが、なんでもバランスだと考えます。

バランスが乱れたら、まず中心に戻る。それは、自分の身体と心を労わることにつながります。何度もリセットして日々新しく活き活きと暮らしていきましょう。



【うらかわ・はるか／人吉市「さんぽカフェオーナー」】

備前牛窓の者

上村雄一

しかない。坂本村史は当時の資料にしたがって「球磨」でなく「求麻」を使用しているの、ここでも、「求麻」とする。

(1)牛窓の者

松井家（細川藩筆頭家老・八代城主）の記録に、永宝5年（1677年）12月に、牛窓の者が五木山で伐採し、鮎婦谷筋を下した例がある。球磨川を利用した搬出ではなかったが、球磨川くだしの場合と同じく、牛窓の者に運上金を松井家に収めさせている例がある。これを先例にして、松井家は求麻領万江山の木材の搬出で運上金を取立てている。ついになら、万江領から人吉に搬出するのは遠方であるので、

と八代郡（松井領）の材木取引の一例を示す意味も含めて、該当箇所を紹介することにした。

益田啓三著『球磨霧此ノ如シ』（人吉中央出版社、2018年6月1日）所収「はるかなる浪岡」を拝読し、『坂本村史』480頁の「牛窓の者」は、同書に登場する倉本慶吉の祖先ではないか。同481頁の「松屋八兵衛」もそうではないか。益田さんの小説は史実を基礎にした本格的な小説で、深みがあり、くりかえし読みたい作品である。本来なら、本格的に書評すべきだが、ここでは倉本慶吉に注目し、しかも浅学のための外れかもしれないことを承知のうえで、球磨郡（相良領）

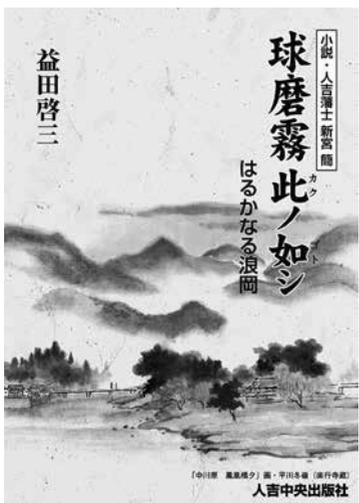
松井支配の鮎婦谷を利用したいとのことであった。

(2)「松屋八兵衛」

延宝3年（1736）11月、求麻の材木主「松屋八兵衛」と八代の問屋の徳淵町彦七の両名が御船番所に次の口上書を届けた。それは、五木山で杉材を伐採し搬出したいが、求麻のほうへ出すのは遠く

て不便である。鮎婦谷ときぎす谷の二箇所を通して出すことを許可し欲しいとの内容。作業に必要な食料も求麻から歩いて運ぶのは道が険しく遠いので、坂本まで川船で球磨川をくだし、そこで水揚げしておき、現場から次々に取り寄せたいとも申し立てた。この申し出に松井家役人は地元でそれによいか照会したところ、現地の者たちは他領との境い目であることにも役所は注意す

べきだろう。材木を下せば作畑、茶、楮、道、橋が相当に荒らされるので事前に相手方と話し合いをして、搬出方法を決める方法をこれまでとってきた。先年、牛窓の者が下松求麻領を下したときも



益田啓三著『球磨霧此ノ如シ』
人吉中央出版社 2018年

べきだろう。材木を下せば作畑、茶、楮、道、橋が相当に荒らされるので事前に相手方と話し合いをして、搬出方法を決める方法をこれまでとってきた。先年、牛窓の者が下松求麻領を下したときも

【つえむら・ゆういち／編集主幹】

くまがわすじの考古地誌

(20)

球磨川筋の弥生時代²⁰

八洲開発株式会社 木崎文化財研究室長 木崎康弘

(NO.181)

「免田式」をしよう！^⑥

夏女遺跡、土器の話^①

I類からVII類までの七種類の竪穴式住居跡。さらに、ベッド状遺構の有無で、a、bの二種類に細分されたI類と、a、b、cに細分されたV類の住居跡。熊本県文化課の園村辰実は、これら九種類の竪穴式住居跡の形と、建替えなどによる切り合い関係などから、その移り代わりを考えた。ところが、残念ながら土器の移り代わりには、園村の検討は及んでいなかった。

一方、筆者は、阿蘇市の狩尾遺跡群、山鹿市の蒲生・上の原遺跡群、あさぎり町の堂園遺跡の弥生式土器や古

式土師器を研究する中で、肥後全体の土器の移り代わりを考えたことがあった。そこで、夏女遺跡の土器を中心に、その変遷がどのようなものだったのかを紹介しよう。

園村がまとめた『夏女遺跡』（園村一九九三）に目を通してみた。すると、どの住居跡からも同じような量や質の土器が見つかったわけではなかったことが分かった。夥しい土器が見つかり、質量共に充実した内容の住居跡がある一方で、ほとんど土器が見つからない住居跡も多くあったのだ。こうしたことは、どの遺跡でも言えることで、

決して珍しいことではない。そこで注目したのが一号住居跡、二号住居跡、五七号住居跡、そして六八号住居跡の四基だった。それぞれ、園村が分けたI類からVII類までの、延べ九種類の竪穴式住居跡との対応関係を見てみよう。そうすると、一号住居跡、二号住居跡は、II類とされた大型の正方形住居跡。五七号住居跡は、大型の円形の住居跡で、壁の一方が花弁状に突き出した形の「花弁型住居」とか「日向型間仕切り住居」とか呼ばれるVc類。そして六八号住居跡は、大型の長方形の住居跡で、ベッド状遺構が付いていないIb類だった。

参考までに、園村が仮説として提示した竪穴式住居跡の変遷（表）と対照させてみると、II類の二号住居跡と二号住居跡は、夏女遺跡では最も新しいと考えた竪穴式住居跡のグループ

だった。Vc類の五七号住居跡は、二番目に古いと考えた竪穴式住居跡のグループで、Ib類の六八号住居跡は、一番古いと考えた竪穴式住居跡のグループだった。つまり、竪穴式住居跡の形を見た園村案を踏まえれば、「六八住居跡↓五七号住居跡↓一号住居跡・二号住居跡」という新旧関係だったということになる。

では、それぞれで見つかった土器を具体的にに見てみる。その時の、主な見方は、次の二つだ。一つは、甕形土器

表 園村辰実が示した変遷案



の形の変化だ。一番良く分かるのが、胴部の張りがどこにあるかで、熊本のと土器では、上にあるものほど古い傾向がある。二つは、重弧文土器の形と文様の変化だ。胴部中央で折れ曲がる程度が古いほど強く、新しくなると弱く、丸くなる傾向がある。文様では、胴部文様の横線が有段のものが古く、新しくなると沈線となり、さらに新しくなると雑で弱々しくなる。こうした点を踏まえて、土器を見てみたい。

まず、一番古いとされた六八号住居跡から見てみよう。用途別の土器の組合せである器種組成は、重弧文土器や複合口縁を含む壺形土器、鉢形土器、高杯形土器、甕形土器によって構成されていた。それらの土器をもう少し細かく見てみると、胴部の上位に最大径がくる、いわば胴の上部が張る形の甕形土器は、菊池川流域の土器型

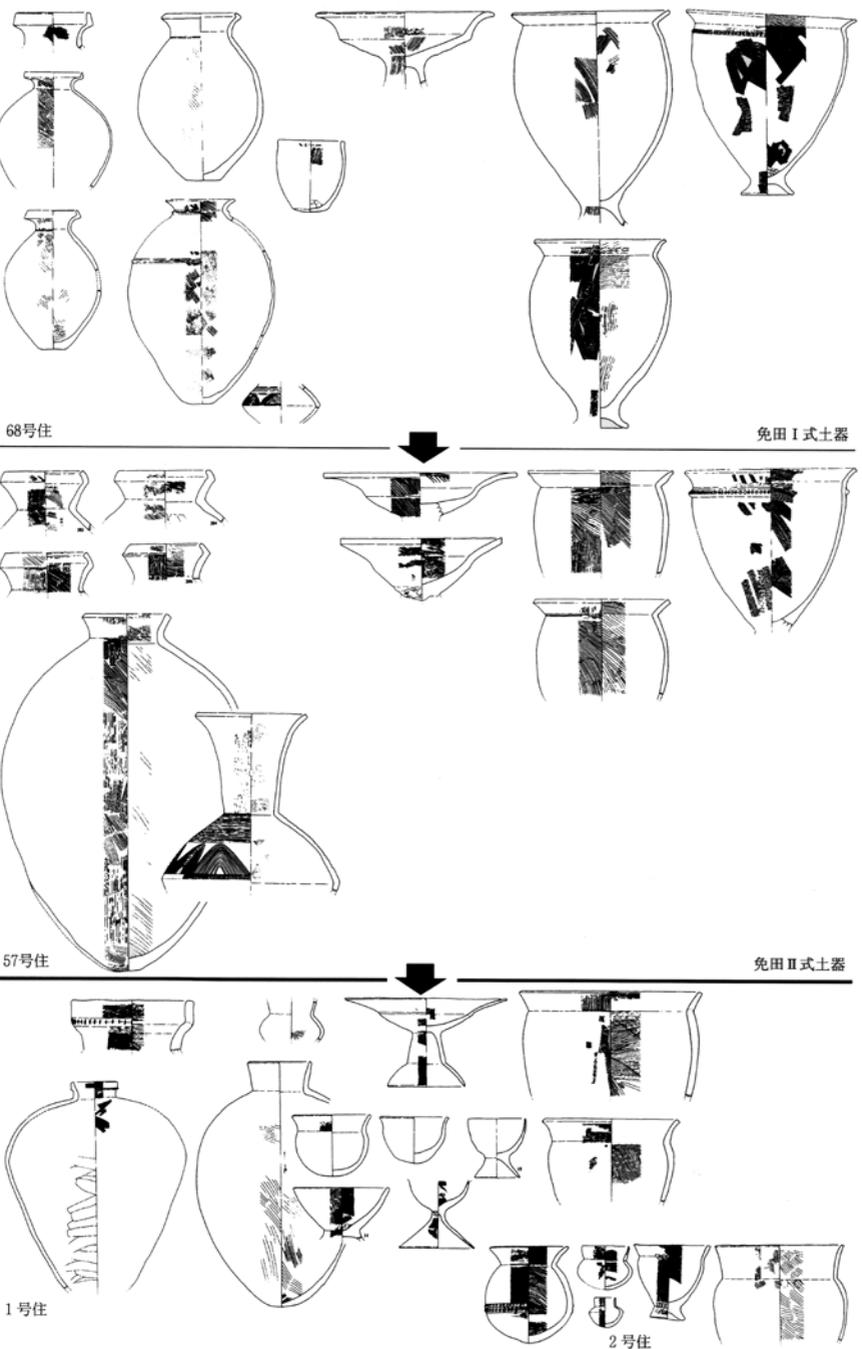
式、西久保式土器の甕形土器に良く似た特徴の土器だった。弥生時代後期の前半期がその時期で、しかも重弧文土器は、強く折れ曲がる形、胴部のシャープな文様から最古型式に近いものであった。こうしたことから、筆者は、これらの土器を一つの型式(様式)として認め、「免田式土器」として再評価し、免田Ⅰ式と呼んだ(木崎一九九六)。

次に古いと目されたのが五七号住居跡だった。土器を見てみると、まず甕形土器の胴部の張りが中位に下がっていた。この特徴は、菊池川流域の「野部田式土器」と呼ばれる土器の特徴で、これと併行することは明らかだった。重弧文土器の特徴も、胴部の折れ曲がりも度合いを弱め、胴部上半部を袋状口縁の壺形土器、高杯形土器の型式的特徴から夏女遺跡六八号

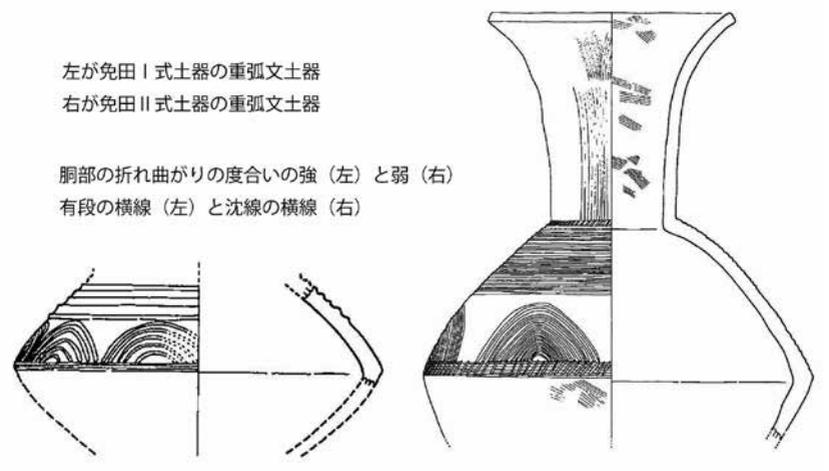
住居跡出土土器群に後続すること、器種組成では、重弧文土器や袋状口縁を含む壺形土器、鉢形土器、高杯形土器、壺形土器によって構成されている。そこで、この土器型式を免田Ⅱ式土器と呼んだ(木崎一九九六)。

このように、園村仮説の一つ、「六八住居跡→五七号住居跡」は、見事な中だ。(つづく)

【参考文献】
 ・木崎康弘 一九九六 「第Ⅴ章 総括 四 弥生時代後期土器群の編年学的研究」 熊本県教育委員会編 『熊本県文化財調査報告 第一五八集 蒲生・上の原遺跡』
 ・園村辰実編 一九九三 『夏女遺跡』 熊本県教育委員会



図② 夏女遺跡の土器の変遷



左が免田Ⅰ式土器の重弧文土器
 右が免田Ⅱ式土器の重弧文土器

胴部の折れ曲がりの度合いの強(左)と弱(右)
 有段の横線(左)と沈線の横線(右)

図① 夏女遺跡の重弧文土器の新旧比較 *縮尺は不同。

木崎考古学と遺跡 ⑤

有佐大塚貝塚

若林勝邦の調査

木崎『魅せられし人々』43頁以下は、若林勝邦の調査活動を紹介している。木崎によれば、明治22年（1889年）12月28日に東京を出て、翌年の1月3日に肥後に入り、同月31日に帰京するまでの約1月間にわたって熊本県内各地の遺跡調査を実施している。そのとき、若林はエドワード・S・モースの大野貝塚の発見を念頭に置いたものであったとのこと。同じく木崎によれば、若林は「肥後八天然ノ内海ニ望ミ九州西南端中央部ノ海岸ヲ有スル」点に注目したようだ。若林は吉野村（現在の氷川町）の大野貝塚、西平貝塚を調べていることからみて、仮に十分な時間があつたのであれば、若林はこの有佐大塚古墳、産島貝塚、高島古墳、大鼠蔵島古墳、小鼠蔵島古墳、さらに、それにつながる日奈

久のもろもろの古墳を発見したかもしれない。しかし残念なことに、若林には、その時間はなく、それらを飛び越して、芦北町の佐敷古墳、同大野古墳を調査している。

有佐大塚貝塚

平坦な田畑のなかにあつて、一見して、なにかの遺跡ではないかと思わせる。近年は、土地が宅地化されていて遺跡を探すのは容易ではない。航空写真で見ないかぎり、どこが遺跡なのか素人には遺跡の場所について皆目検討がつかない。有佐大塚古墳はその例外である。

同古墳は現在、調査中で、その全体像は把握されていない。現時点では、縄文中期から後期にかけての土器・石皿・たたき石・石斧・石



有佐大塚古墳の全景。青いブルシートは発掘調査中の箇所



発掘調査中の箇所



調査地点には多数の貝殻が残っていた

産島貝塚・高島古墳・大鼠蔵島古墳・小鼠蔵古墳

以上については、つる詳子さんが本誌10号59頁（高島古墳）、11号73頁（大鼠蔵島古墳・小鼠蔵古墳）13号52頁（産島貝塚）ですでに触れているが、産島について簡単に補足し、高島古墳については写真を示す。地元住民のみなさんによると、産島には貝塚は全部で4箇所あつて、そのうち1箇所の調査が実施されている、貝塚には「触れない」（手を加えない）が地元民の習わしであるとのこと。木崎さんによれば、「触れない」は「祟りを恐れた行為」で遺跡についてよくみられる行為らしい。住民のみなさんからは



産島橋と産島

鍾などが出土しているほか、貝塚を利用した前方後円墳がつくられたようである。5世紀頃の古墳と推測されている。貝塚を利用

した古墳は八代海沿岸部分によくみられるのであって、同地方一帯は同一文化のもとにあつたにちがいない。

有佐大塚古墳 発掘調査事務所

八代市 文化振興課
発掘調査期間中、ご理解、ご協力をお願いします。

発掘調査事務所の看板。前方後円墳を中心に調査を進めているのであろうか。調査事務所の名前は「有佐大塚古墳発掘調査事務所」である

でなく神聖な場所という感覚もあることを知った。

「触らない」だけでなく、その場所に神社などを併設する例も多数ある。同じく木崎さんによれば、それも同じ理由によるとのことであった。産島の貝塚には沢山の蚊がいた。そのことは地元でも有名で、住民の人たちは「産島蚊」と呼んでいた。産島には、貝塚だけでなく、箱式石棺群もあるが、その場所は確認できなかった。

なぜ、芦北町大野を調査したのか

若林勝邦の調査活動のルートを進むとき、若林が、他の遺跡を飛び越して、なぜ、芦北町大野（当時



坪井正五郎



若林勝邦



灰塚の全景。地元では灰塚を「へいずか」と呼ぶ

は、葦北郡大野村）を調べたのか、不思議であった。若林の問題関心は貝塚にあるのではないか、貝塚は海辺近くにあるのではないか、芦北町大野は海辺から近いといえず、若林の問題意識にそえないのではないかといった疑問がわいた。木崎さんによると、安永2年（1773年）に出版された、木内石亭『雲根誌』に坪井正五郎が注目し、その弟子の若林が調査に趣いたとのことであった。安永2年の著作に注目した坪井の力量に驚くとともに、大野地区は海に近かったとの伝承が残っていることに気づいた。



灰塚の山神様・薬師像薬四像。小さい塚にもかかわらず、両者が祀られている。船転覆の伝承と関係しているのだろうか



人吉街道沿いにある灰塚をめぐる伝承である。その伝承によれば、灰塚は灰を積んだ舟が沈没してできた島で、海は「潮浸」地区まで及んでいたという。近くには、白木地区（白木は新羅につながる）もあることを考慮す

れば、若林の行動は突拍子もないとはいえず、じつさい、大野地区には貝塚が存在しているのであって、灰塚伝承とともに、不知火海沿岸の古層の文化を探る必要を感じる。（春秋）

天草の「五足の靴」

—「パアテルさん」と「茂助」は何処に居る③

富永和信



天主堂横に建つガルニ工神父像

前稿においてパアテル神父について一部紹介したが、同神父の生涯変わらぬ慈悲深い行動を見よう。

パアテルさんが、信者のみならず村人たちからも敬慕されていた理由は、次の事から頷ける。

時は頭を下げ、親交のあった村人が亡くなった時は仏教徒でも教会の鐘を鳴らし弔意を表した。



天主堂横に建つガルニ工神父の墓碑。神父はこの下に眠る

一、赴任以来一度も故郷に帰ることなく、第二次大戦開始後も天草に留まって生涯、天草の人たちと苦楽を共にして、最後は天草の土となった。

三、大江天主堂（教会）を、粗衣粗食の質素な生活によって貯えた資金と故郷フランスの私財を投じ、信者たちの協力を得ながら幾多の困難の中で完成（建立）させた。

四、支那事変、第二次大戦の折には鉄類の供出、信者子弟の出征の見送りなど、村人と一緒にあって一喜一憂した。

五、当時としては珍しい孤児のため

の子供小屋（現在の児童養護施設）

を建て、社会福祉を実践した。

六、老齡八十二歳となり病の床に臥せ、もはや快復の望みも無くなったので信者たちが「フランスの遺族に何か遺言はないか？」と尋ねると、「何も無か、天主堂の側に埋めてくれ。墓は良か石で造るな。山の石を積み重ねた墓で良か。余った金は病人や難儀している人へ上げてくれ。みなさんには、ひじょうお世話になった。」とある。

のである。

前稿で紹介した天草ロザリオ館の山下嘉明さんから話のあった、パアテル神父に直接仕え、神父を知る唯一の人、堀口静雄さん（平成二十五年当時八十三歳）に是非にも会って話を拝聴しなければならぬ。

堀口さんは、私の「パアテルさんと

茂助」探しの最も大切な「生き証人」となる人だからである。

ロザリオ館の山下さんに同道してもらったので堀口さんも初対面の壁は無く、フランクに当時の貴重な話を聞くことができた。

堀口さん宅は、大江天主堂から曲がりくねった小道（車がやっと通れるくらい）を山手に向かつて三、四百メートル上った中腹にある。彼は高齢にもかかわらず段々畑で農作業をしておられた。

堀口さんは大戦開始前後は小学生で、兄と姉がしていた神父の手伝いに加わったそうである。さらに昭和十七年に神父が亡くなった時には聖水で体を拭き清めてあげたということである。これには驚いた。

パアテルさんこと、「ガルニ工神父」について調べるにつれて、信仰心の薄い私ではあるが、その真の聖職者としての人徳と功績の偉大さに圧倒された。明治末から昭和初期にかけてこのような外国人神父が天草の地に居たことに私は心から感動を覚えた



当時を語る堀口静雄さん（右）と、天草ロザリオ館の山下嘉明さん（中央）

【とみなが・かずのぶ／山口市】
(つづく)

責任放流（維持放流）

荒瀬ダムゲートの全開によって、荒瀬ダムが果たしていた三つの義務を瀬戸石ダムは引き継ぐことになった。二者についてはすでに触れた。今回はその最後の義務、いわゆる「責任放流」（電源開発株式会社は「維持放流」という）が、それである。一

荒瀬ダムと瀬戸石ダム④

定量の水を必ず放流しなければならぬ責任を指す。流入す

るすべての水を貯水し、下流に流さないのであれば下流に大きな犠牲をもたらす。長い間、犠牲発生は無視されてきたが、その時代ではなくなり「責任放流」という考え方が生まれ、現在では完全に定着している。電力発電専用ダムについても、この考え方は適用されている。例外はない。

荒瀬ダム時代は、その責任を同ダムが果たしてきた。しかし水利権の失効により同ダムがゲートを全開した結果、その責任は瀬戸石ダムが負担することになった。それは瀬戸市ダムの操作方法を急遽、変更せざるをえなくようにした。それまで夜間に球磨川の水を溜め、昼間に放流する「ピーク時発

電」が可能であったが、できなくなった。

下流へ一定量の水を必ず放流しなければならぬ以上、当然の結論だが、同ダムの発電量に直結する重大問題である。

電源開発株式会社の青木九州支社長（当時）は「瀬戸石ダムは構造的に毎秒55トン以上の水量がないと発電できない。常時放流すれば、十分な

流量がある時期には問題ないが、渇水期には関係者との協議が必要となる。いずれにせよ、発電量の減少は免れない」と発言し、責任放流が同ダムにとつて予想外の負担になることを率直に認め、さらに「瀬戸石ダムの販売電力量は09年度で約6千万キロワット時（約1万5千世帯分相当）の実績がある。仮に水力発電をやめれば、火力の比重

が上がり、二酸化炭素の排出増につながる。地元自治体とも良好な関係を築いており、地域の理解を得ながら水利権を更新し、設備の効率化を考えていきたい」と述べ、当初から、「設備」つまり発電用タービンを交換して少量の水量でも発電可能になる方向をとる胸を示唆していた（平成22年4月15日付熊日）。しかしながら、「設備の効率化」の具体的意味を流域住民は直ぐには理解できなかった。タービン交換が

話題にのぼるなかでようやく、その意味を知るに至った。流域住民に理解不足の側面があったことは否定できないが、タービンの交換という発想は流域住民にはそもそもなく、その提案は突如の措置であると受け止められて、水利権更新時の瀬戸石ダムの形状を変更する行為で違法ではないかとの意見も強く出されたが、結果的に同社は、平成26年3月に「55トン対応のタービン」を「20トン対応のタービン」と交換した。水利権は水を利用する権利である

以上、同社の措置を違法とは評価できない。「騙された」と憤る流域住民は少なくともなかったが、理論的には、問題のない変更であった。「55トン」と「20トン」の差は大きく、同ダムは責任放流の義務を履行しつつ常時発電が可能になった。

同ダムの場合、責任放流（維持放流）の水量は八代土地改良区との協議で決定されている。漁協は鮎遡上時期に一時的に要望を出す程度である。電源開発株式会社の当時の現場担当者の発言を記憶しているが、土地改良区の要望は予想外に大きなものであった。改良区の担当者は鏡町などの干拓地を同社担当者に見学させて、その要求の妥当性を強調した。「漁協より土地改良区の要求が厳しい」とたびたびこぼしていたことを思い出す。

青木九州支社長（当時）の発言中の、

①「仮に水力発電をやめれば、火力の比重が上がり、二酸化炭素の排出増につながる」、及び、②「地元自治体とも良好な関係を築いており」の二点も看過できない。①は原発や火力発電と「比較すれば、水力発電は「安全・クリーン」であるとする根強い世論が存在しているからである。こうした「比較」には問題があるが、多くの人々は、比較不可能なものと比較しているとの意識はなく、「火力発電はよりマシン」との感覚のなかにいる。その感覚は「水力発電に問題はない」との結論に直結しやすい。②も無視できない。「自治体」の首長には瀬戸石ダムについて殆ど関心をもたない人物もいるのである。どちらにも、「ダム周辺の住民の「犠牲」のうえに「発電」の利益を得ているとの自覚がない点において共通している。

（春秋）



瀬戸石ダム

稲留二郎の世界 ③

球磨弁まつ出して綴る



前田一洋

威張りくさった侍が住んだ新馬場
そして七日町から二日町^にを通つていよ
いよ繁華街の九日町の東端にやつて来
た老夫婦。

「見る見る電信柱がなんぶう(たく
さん)立つておらーよ。見やりもうせ、
家ごてえ色々な物が出ておらーよ。
もう、これからが九日町ばい。見や
れ見やれ饅頭のうまかごたるばい。
かかアあれ見やれ酒屋肴屋もあるが、
一っぴやーひん飲もうじやあるみゃー
か」。

ここから川端^や出て、舟に乗るたい。
ここが札の辻ちイおつた。これが警察
那役所。そら大橋、中川原、小侯橋、
向こうに見ゆるは新町と言つたい。こ
れから後え戻つて、昼飯を食て、ゆく
うて戻ろうや。そこの煮売り店の幾弥
さん方や寄ろつや。それがよかろうば
い」と寄る。

「ちよつと御免なざり申せ。あら誰
かと思めもしたればカミヤゲのトト
さんでござんすぬう、久しゆにお目に
かかりました、さあまああつちイござ
んし。有難うござんす、何ぞ飯のシャ
ー」

「下さんせよ」と上がり込む。
「愛々、鮎の煮付け、蛸と豆腐と茄
子の煮染め、鯉^{つとん}もござんすばい。
その鮎を一皿くださんし、これはいく
らでござんすか。こらア一皿三錢でよ
うござんすばい。と言つて膳に付けて茶

と早速飲み^の宿弥が素性を現わし
ました。これを聞いた阿母(かつて方
力さんのことをアホ、トトさんをアテ
と言つていました)、まだ、のうちか
ら酔つ払われては大変だ。

「まちつと先イ行たてみゅーや、あ
ら太か茶碗鉢のあらー」などと目先
を代えますが、「茶碗鉢じゃなか植木
鉢ばい」と往なされ、いささかムツと
して「そうかよ」と膨れ面。

「これが札所の観音様、はい南無
阿弥陀。こらア稲荷様はい南無阿弥

たばこ盆を付けて出すと、酒も一瓶
下さんし。愛と言つて、これは上み
酒でようござり申すばい、以下次号。

蛇足解説

今では新町から大橋を渡つた先は
四差路になっていますが、この当時は
三差路でした。太平洋戦争の末期、
焼夷弾による類焼を防ぐため、人力
車の立場などを含め取り壊し、紺屋
町の方に抜ける道路にさせられたので
した。

この「札ん辻」から青井神社に向
かう通りは、この『熊つれづれ咄』よ
りも一年前の明治三十二(1899)
年にできた『人吉繁盛記』の地図に
よれば、「西町」となっています。現
在は九日町で通称西九日町ですが、
戦後の宣伝文句に、「山本屋はどこ

陀々々。昔は無かった小間物、金物、
反物店。見やれ見やれ、太か宿屋こ
れは鍋屋、あれは舁屋、それから菓
屋、呉服屋、酒屋と大店が軒を並べ
て繁盛す。肴屋の肥前屋、種屋と両
店は球磨郡中の大店にて、儲けもた
くしやー金たくしやー、出入りもたく
しやーあるげなたい。この十文(字)
が金の集まる境ばい」と、今の肥後
銀行のあたりまでやつて来ました。現
在でも、旧岡本紙屋のイスマ、老舗
の鍋屋旅館、新装なつた鮎里ホテル、
肥後銀行、それにパチンコ屋さんまで
あつて金の集まる所ですたい。

宮山時計店、久留米屋呉服店、温
泉饅頭の秋山辺りから、もう少し先
を眺めてみよう。

「これから段々とそれぞれの店もあ
れどもシカと知らん。八代に行く時ア

じやろか、西町西まーち」と言つてい
たのは、その名残りであつたのでしょ
う。更に岩本文尚堂の前から西へ向
かう筋、那須齒科や葉山葬祭場のあ
る通りは通称横西町と呼ばれてきま
した。

冒頭に、「電信柱がなんぶう立つて
おらーよ」という件がありました、
札の辻にはすでに「人吉郵便電信局」
がありましたので、電柱が、なんぶ
立つていたのが頷けます。

ところで煮売り店のおかみさんの返
事言葉に、「愛々」というのがありま
したね。今の標準語ハイもいのです
が、この「アイ」こそ球磨人吉地方の
文化遺産として、ぜひ復活そして使
い続けていければと思うのですが。

【まえだ・かずひろ／人吉市】

ハンマーの男

久馬 俊

乗客は僕だけだった。そういうことは田舎ではよくある。乗客がひとりもいないときも少なくない。そういう状況がつづくと思数が減り、便数が減るとさらに乗客が減るといふ悪循環にはまり、もがき苦しむうちに最終的には、運行廃止にいたる。運賃収入ゼロに近い状況ではそれも致し方ない。ほとんどの人がマイカーをもち、絶対的に人口も少なくなっていることにその原因があることは誰でも知っているが、マイカー志向は止まる様子はなく人口が増える要素もないことを考えると、「ローカルバス」はやがて死語になるだろう。駕籠、人力車もそうやって死滅した。文明の利器はなにかを滅亡させる宿命をうちに宿している。それは誰でも気づいていても、いざ、縮小・廃止のときになると、「公共交通機関」を題目にした反対運動が最後の灯火のように炎をとます。



かり握りしめているだけだ。バスはなにこともなく進み、3番目の乗客が登場した。マスク姿でサングラスをかけていた。カバンなどの持ち物をもっていない。年齢は50歳ぐらいであったろうか。陽によく焼けていた。なにかが起りそう、なにかと起こることもなく、バスは走った。

サングラスの男が最初に降りた。ズボンのポケットに手をいれ、お札を取り出した。男は財布を持たず、札束をそのままポケットに押し込んでいたのであった。いつもそうしているのだろう、まとめてお札をとりだした。札束から1枚をとりだし両替し、サングラスは運賃箱に200円を入れた。ハンマーはそれをみていた。バスは

いまでは、いずこでもみれる光景で、それに、心が動くことはない。灯火は野辺送りの儀式にすぎない。

バス路線は経営的に最悪だが、乗客からみれば悪くない。乗客が少ないので、乗り心地が抜群にいい。静かで快適で車窓を楽しみこともできるし、短時間にしろ、本も読める。疲れた身体を休める機会も与えてくれる。都会のすし詰め電車では新聞すら読めず、ひたすら目的地への到着をまつしかない一種の護送車状況だが、そうした苦痛は田舎にはない。

快適な一人旅の乗車を楽しんでいると70歳ほどの男が乗ってきた。ズボンは汚れ、上半身は下着姿であった。これはよくある。肌着での乗車は許されるとの慣行はいまも残っている。問題はそこにはない。男はハンマーを手にしていた。ギクとする。運転手もチラリと男をみる。男がもっているのはハンマーだけ。初老とはいえ、嫌な気分になる。幸いにして僕より前の席に座った。後方に座つたら、対応のしようがないが、前方だと安全だ。運転手は……もちろん、安全ではない。男はハンマーをもっているだけで、振り回すことはなかった。ハンマーをしつ

動きはじめた。ハンマーが下車する旨を告げ、バスは停まった。男は、「150円と思つとけん、150円しかなかとですよ。すまっせん」と運転手に告げた。「探してみなっせ、小銭がでてくるかもしれんですけん」と冷静に対応した。ハンマーはあちこちをさがし始めた。千円札がでてきた。男は、嬉しそうに笑った。運転手も安心した様子であった。ハンマーは下車した。残つたのは僕だけになった。

降りる準備をはじめた。財布がない。カバンのなかをくまなく探したが、みつからない。ポケットに手をいれた。結果は同じ。悲しくなった。苦境に立たされた気分であった。仕方ない、事情を運転手に話そうと決心し、読みかけの本をバックに入れた。本には千円札が葉のようにはさまっていた。そうであった。運賃用に千円札を用意し、直ぐに支払えるように本に挟んでいたのがあった。ハンマーのとサングラスに気をとられ、それを忘れていたのであった。

【きゆうま・すぐる／八代市】

自然災害対策の基本

上村雄一

熊本地震を機に、自然災害への対応策について、本格的な検討が始まった。個人レベルの減災対策もあるが、公的レベルでの対策にひとまず注目すると、防災機能を一箇所に集中し罹災後の対応の一元化を図る方向で準備がすすんでいるようである。情報を一箇所に集中し、全体的観点から、災害対策を実施できるようにすべきことには異論がないであろう。問題は初期対応である。

地震の場合、予期不可能な時間に発生するため、シミュレーションを設定しにくいのが、一般に、幹部職員は対策本部に駆けつける仕組みになっているようである。対応の一元管理を前提にするかぎり、対策本部・危機管理室への幹部職員などの迅速な集合は不可避にちがいない。問題はその先にある。

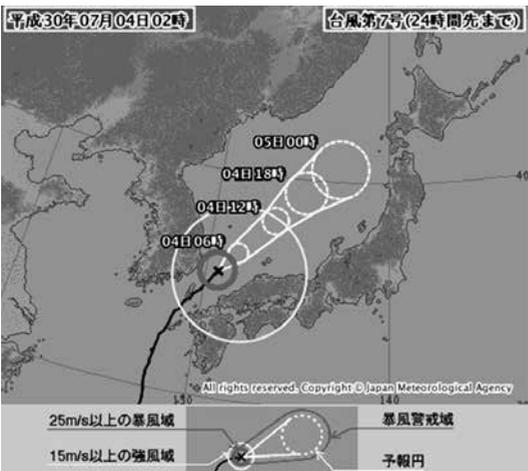
たとえば、幹部職員が飲酒していたときに地震が発生したときには、どのように行動すべきだろうか。傷病時と同様である。飲酒の場合、タクシーなどを利用して駆けつけるべきであるとの意見があるが、飲酒によって判断力は低下しているはずで、そのような職員は自宅待機すべきでないか。あるいは、地震発生地で罹災の事実を確認したときには本部にかけつけるのではなく、現場の対応にひとまず尽力すべきでないか。被災者救済のためには分散的に対応すべきときが多いのでないかという問題もある。避難場所の設置など中央の判断を待てないときもある。こうしたソフト面についても検討が進んでいるにちがいないが、じつさいには、どうだろうか。6月18日の大阪北部地震では対応は一致していなかった。民間企業では、出勤を命じた例がみられ話題になった。

い、八代市の場合、①7月3日16時12分に気象庁が土砂災害警戒情報を発令し、②同59分に避難勧告を出した。③これを受けて、同市は18時に泉町、東陽町、坂本町に避難所を設置した。この措置はどうか考えても遅すぎる。しかも、18

時の避難所設置は夜間移動を誘導するもので危機管理の原則に反している。順序としては、避難所設置

が先決である。

【うえむら・ゆういち／編集主幹】



台風7号の進路（気象庁のホームページより）



八代市庁舎イメージ図

倉敷便り

19

絵と文／原田 正史

津軽紀行(一)

年来の願望であった相良清兵衛殿の墓参を果たすべく、平成三十年六月八〜九日、娘と二人で青森県津軽地方の中心都市である弘前市を訪ねました。

倉敷から新幹線で大阪に入り、大阪伊丹空港から一路、青森空港を目ざしました。所要時間約二時間でおよそ二千kmを飛ぶことになりました。九州の縦の長さがおおよそ三百kmですから、九州を縦に三つ並べた長さだと理解出来ます。九十一歳

二ヶ月という年齢から考えると、飛行機を利用したから墓参が出来たのであって、新幹線だけでは体力の消耗が激しく、途中で行き倒れになった可能性が高いと思われます。

飛行機は、七十四人乗りのプロペラ機でした。これまで搭乗した飛行機はすべてジェット機であり、地上におかれた零戦には乗ったことがあっても、空飛ぶプロペラ機に搭乗するのは初めてのことでした。プロペラが三ペラであるのに気付いた時、人吉海軍航空隊の飛行場に着陸した同じく三ペラだった紫電改の威風堂々たる勇姿が、少年時代の思い

出として一瞬脳裡をかすめました。

プロペラ機は、一万数千mの高度を飛ぶジェット機とは違い、七〜八kmを飛び、速度も遅いため地上の景色がよく見えます。大阪伊丹空港を離陸した飛行機は、しばらく東北東に進みますが、忍者の里甲賀上空から進路を北北東にとり、岐阜・郡上・高山を経て中央山地を突っ切り、日本海の海岸線に到達します。中央山地では、白銀に輝く残雪をのせた三千m級の山々、すなわち立山・乗鞍岳・御嶽山などが赤黒い山容を見せて連なります。この山並みが南日本アルプスであり、北アルプスと共に日本の屋根を形成しています。

海岸線では、富山平野と富山市、新潟平野と新潟市、庄内平野と庄

内市、秋田平野と秋田市などが次々に現れては消え去りました。秋田から飛行機は陸地に入り、十和田湖と八甲田山が右手に見えると間もなく青森空港に着陸です。空港か

らはバスで弘前駅に向かいました。道路の両側には鬱蒼と樹木が生い茂る小高い森が続きます。森には雑木にまじって赤松の巨木や真っ白な房状の花をつけた背の高い広葉樹が大きな群落をつくって次々に現れます。地元の人と思われる女性に尋ねると、「あれはアカシアです」とのことでした。

やがてバスは森の連なる台地の末端に到達しました。目の前には果てしなく広がる津軽平野が横たわり、その右手前方には、左右に山裾を広げた岩木山(1625m)が、端麗な姿を見せて立ちはだかつていました。まさに津軽富士という名に値する名山です。中腹には幾筋かの雪渓が残っていて、さすがに北国の山だなと思わせました。

弘前に着くとホテルに荷物を置き、タクシーで程近い弘前城へ向かいました。堀に架けられた橋を渡り、江戸時代初期の創建時の姿をそのまま残している追手門をくぐり、城内に入ります。城門は追手門のほかに三つ存在します。いずれも創建時のものであり、すべて国重文です。日本一の桜の名所とされるのは、内堀に架けられた朱塗りの丸木橋の上から見る桜の花に囲まれた天守閣なのです。しかもその前方には岩木山が望めるのですから完璧な景観だと言えます。弘前の桜は通常の桜と違い、剪定されているために幹が短く、枝が左右に力強く伸びていて、花着きが良いのです。昔から「梅切らぬ馬鹿、桜切る馬鹿」と言われていますが、弘前ではリン



津軽岩木山 (2018.6.8, 原田)

ゴの木に施されている剪定を桜の木に適用して成功しているのです。城内では、幹の太い桜の古木や、赤松の巨木が並び立つ見事な姿を見ることが出来ました。なお、城内見学には最近始めたとされる二人乗りの人力車を利用しましたが、車夫さんの説明が津軽訛りなので殆ど理解出来ませんでした。もちろん車夫さんは、これが標準語だと思っているのかも知れません。

追手門前でタクシーを拾い、この旅の第一の目的である西福寺を目ざしました。西福寺は相良町にほど近い、大通りから僅かばかり入り込んだ、タクシーがやっと通れる細い道を少し行つた町屋の中にあります。西福寺は小さい寺であり、本堂の裏手にある墓地も狭く、立ち

並ぶ墓石の数も数十基程度だと思われしました。清兵衛殿の墓は、津軽流罪に際して弘前までついて来た五人の家来の一人であつて、本当は清兵衛殿の実子だつたされる人を始祖とする田浦家の墓所に置かれていました。灰褐色を呈する高さ1mほどの角柱墓は、風化が激しく、戒名の天金や大居の文字などがどうにか見える程度でした。横には田浦家当主である田浦伸夫氏によって建造された閃緑岩製の四角い立派な角柱墓が置かれ、刻字も完全に復元されていました。この事は清兵衛殿に関連する多くの人たちにどうも大変有り難いことであつたと言わねばなりません。

古びた清兵衛殿の墓石をしっかりと抱きしめた私は、「あなたに会う

ためにやって来ました」と言うのがやつとで、万感胸にせまり、にじみ出る涙を止めることが出来ませんでした。しばらくして墓前にぬかずき、持参した砂岩円磨礫を奉呈して、これまでの経緯を報告し、今後の助力を願いました。なお円磨礫には次のように記入しておきました。

表面

成徳院殿天金本然大居士靈位

裏面

肥後人吉（現倉敷）之任人原田

正史球磨川砂岩礫呈上ス

墓所に別れを告げた私たちは、次の目的地に向かいました。

【はらだ・まさふみ／元人吉市文化財保護委員、倉敷市】

あなたの人格はどこから

武井京子

あちこち顔を突つ込むと、いろんな人に出会う。地元にも尊敬できる人がたくさんおられる。そんな人に出会った時、「あなたの人格はどこから来たのですか？」と聞くようにしている。教育は「百年の計」と言われてきたが、立派な人の成長過程での、家庭教育・学校教育に関心があるからである。

ある人は、祖母の人格・教育であり、知らず知らずに見聞きしたことが今の自分の素地だろうと言う。その方のおばあさんは、大工の棟梁の奥さんで、従業員・お弟子さんの食事の世話などをし、言葉使いの優しい人だったそうで、子どもの自分にも常に肯定的な言葉掛けをしておられたという。母親は「何故できないのか」と責めることが多いが、そのおばあさんは「ここは良く出来たね」と優しい言葉で接してもらったと、70歳になった今、

人にやさしく身をいとお世話されたように、自然と自分も身につけているのでしょねとおしゃる。

次に、ご両親が町内会長・民生委員とかの奉仕活動をされている方のごともさん。熱心に町内の子ども会や、部活動のお世話をされている。地域活動の役目がまわつて来たら苦痛とは思わず、楽しい活動にするように創意工夫して周囲を巻き込む人がいるのは素晴らしい。

四十年、五十年前の教えた生徒さんたちに会うことがあつたが、高校の教育がよかった言ってもらって嬉しかった。保育士の人は定年してもまだ来て欲しいと言われ働いているというのであつたし、高齢者施設で働いている人は、高校で学んだことが大いに役だっていると話してくれた。

先日、保育園の卒園式で「はじめてのケンカ、はじめての仲直り、はじめてのごめんない」を歌ってくれた。

さて、あなたの人格はどこから、周囲の立派な人に興味が出てくる、この頃である。

【たけい・きょうこ／人吉市】

「代金百枚」

小松重男著 『蚤とり侍』 所収

白城松男

友之助の父は家重代の江戸城府の家老であった。乱行ぶりを諫言したところ主は激怒し友之助の父に暇を命じた。父はその仕打ちを「ありがたい」承つて藩邸内の家老屋敷を静かに出た。そのとき友之助はまだ前髪をつけていた。友之助の母はその



小松重男 著『蚤とり侍』
（光文社文庫
2017年10月20日）

はじめての子である友之助を生んだのち二十一日目に亡くなった。産後の肥立ちが悪かつたのである。友之助の父は「後添えをもらう気になるものか」と頑として後妻を娶らなかつた。それ故、友之助には兄弟はいない。

家重代の家老職だから、江戸には知人・親類が多数いる。世話をする故に身を寄せぬかと、言つてくれる人もいた。しかし、父は「迷惑をかけたくない」の一言で申し出を断りつづけ、およそ20年あまり裏店に蟄居し表に出なかつた。表店を借りて町

道場でも開くといたしましよつかと友之助が言うと、父は「ならぬ。帰参の御許しを待つて蟄居中の者が致す所業ではない」というばかりであつた。家重代の家老職であつた「栄誉」が父にそうさせたのかもしれない。「本来、御聡明であられる殿様は、いづれ御自身の過ちに御氣付きになされて、われわれの帰参を御許しになる」が父の口癖であつた。その父は一年前にこの世を去つた。父は、終生、一徹な律義者であつた。

友之助は父の墓を建てるために売れる物はすべて売り尽くして、江戸有数の貧乏長屋に越し、古傘貼りを生業にする生活をはじめた。そこへ長屋の男が子の手習を頼んできた。子の将来を心配した一途な願ひであつた。友之助は男の情に絆され

て、弟子子をもつことにした。その日暮らしの長屋の子である。友之助は束脩はおろか月謝も一文も受け取ることなく、弟子子に教えた。

弟子子の数はそうこうするうちに増えていき、生業の古傘貼りに支障がでるようになり、ついには生業を失つた。生業がなければ店賃も支払えず、友之助は残飯を猫と争うまでに逼迫していった。そのさなか猫に噛まれて、その傷口から毒が入り、友之助は瀕死になる。そのときはじめ



映画「蚤とり侍」。本作は同映画の原作の一部である

て、長屋の住民は慌てふためき友之助の命を救おうとし、医者探しもはじめた。たいていの医者は長屋の名を聞くだけで治療を断つた。薬礼を贈るほどの余金などない長屋であつた。ひとりだけ、金五両を前金で支払うなら治療をいたすという医者がいた。途方もない金額で長屋で用意はできない。それを知つたうえで医者は金五両は「長年の苦勞」という高い元手をかけて仕入れた「腕前」で、相場より高く売れるといつた。長屋の住民は強欲な医者だと非難したが、友之助は道理のある返答であるときた。そして、ついに、友之助は最後の決断をする。父が殿から拝領した刀を売ることに決めたのである。父はその刀を殿への

至誠の証として帰参が叶つたとき

殿に御覧にいと申して、余念なく手入れしてきたもので、友之助も父の形見だとして大切にしてきた。その刀には「代金百枚」と記されていた。五両どころか千両近くの値がある、そして、友之助はその刀を医者に渡し治療を受けたが……。

以上は、この作品の粗筋の一部である。物語は最後まで読まなければ作品の味を感じ取れない。作者の筆は繊細で、武家社会の有り様、江戸の貧乏長屋の様子を、業欲、狡猾も含めて、生き生きと描いている。阿部寛主演の映画「蚤とり侍」を観て、小松重男の名をはじめて知つた。昭和6年に生まれて昨年3月に亡くなつていった。享年86歳。他の作品も読みたい作家だ。

【しらすき・まつお／八代市】

小説・相良清兵衛

7

山口啓二

慶長十二（一六〇七）年の秋も更に深まり、その日も深い霧が出て朝晩は寒いくらいになった夕刻、西日が差した清兵衛の屋敷に元剣道師範丸目藏人佐入道鉄斎が現れた。鉄斎は七十を過ぎ指南役を解かれ既に隠居をしており、城から二里ほど東の切原野という所で原野を開拓して百姓をしていた。それでも鋭い殺気は前と変わらなかつた。

「これは丸目殿、息災にござつたか。一年振りにござるかな」

「はい、お父上休矣殿がお亡くなりになって以来でござりましょうか。拙者今は百姓を致しております故、なかなか出かけることがままなりません」

庭で植木の手入れをしていた清兵衛は、藏人佐の姿を見ると玄関で出迎え、長い廊下を歩きながら奥座敷へと案内した。

清兵衛の屋敷は城の下の御館の西に建造中で、かなり大きな住まいの大方はすでに出来上がっていた。もともとこ

【前回までのあらすじ】父休矣の後を継いだ清兵衛は、藩内の本格的な基盤整備を進めていった。そして時々思い返すのはかつての朝鮮出兵ことであった。

の土地は南から球磨川に合流する胸川の流れを、さらに下流にあたる西側に変え造成、城のすぐ近くに新しく押し広げられた所だ。清兵衛の屋敷はその北半分が当てられた。

「御家老、お城も青井の社殿も街並みも、随分と立派に出来よりますなあ。それにこの御屋敷もなんとも大きゅうて立派な事だ。出来上がりが今から楽しみでござる」

「それもこれもそなたのお陰にござります。青井社は神君家康公の御配慮の賜物。それはともかく、街割りはやはりそなたの申す通りにして良かったと亡き父も申しております。誠にかたじけなくござる」

球磨川のすぐ北側はその前まで藪が茂り、その先に少しばかり田畑がある荒地であったが、それまで青井社の門前

にあった町家を移転し、そこに新しく商家が建てられていた。間口が二間半ないし五間、奥行きは二十五間ほどの細長い建物で、その奥には庭があつた。規模は小さいながらも京都の街並みを見事に再現したのは丸目藏人佐の教えによるものであつた。この町家は現在も一部がそのまま残り利用されている。

「あいや、拙者見て来た通りを進言しましたまで。それにしても街並みがここまで見事になるとは思わなんだ。いやはや、実に立派なものにござります」

「そう言えば、あの街並みを教えていただいたのは朝鮮での戦いの折り、安遍の城を護っていたときのことでしたなあ。あの城を我が相良軍たつた八百の兵で、明と朝鮮軍三万の攻めを良くぞ守り切つたものにござる。あれからも十五年も経ちまするか」

「もうそんなに経つのでありますかな。たしか安遍での戦いのあとで御座りましたのう。あの時は殿の見事なる御英断で我ら命拾いを致しました」

十五年前の文禄元（一五九二）年五月末、朝鮮で相良軍と鍋島軍が加わる加藤清正の第二隊は、イムジン河を渡り開城を陥落したのち北東へ向け出発、咸鏡道を目指した。江原道を奥へ進み山道に入ると、そこから先は道らしきものも無く、後方からは敵軍が追撃してきた。これには隊のしんがりを務める相良軍が大奮闘、深水駿河は得意の鉄砲で、三木内膳は弓で応戦、かなりの敵を倒し、丸目三兄弟は手裏剣と眼つぶしで、さらに万江長右衛門らの一派が迎え討ち敵を斬り果たした。かつて水俣落城のち島津の軍門に下つてから筑後や豊後大友攻めで何度も経験があつたからだ。更に進めば馬息嶺山脈の尾根で、まさに剣を立てたようなかなり険しい道となつた。敵の執拗な追撃もここまでであった。開城を出てから咸鏡道の南端に位置する安遍に到着するまでに十日程かかり、既に兵糧も底を尽きかけていた。相良家を永らく逼塞ひつそくとなつていた丸目藏人佐も既に五十を越えていたが、清兵衛頼兄のたつての願いで第二人と共にこの戦いに参戦していた。安遍に着いたら先ず兵糧を調達し、腹ごしらえをする

■主な登場人物

相良清兵衛（犬童頼兄）＝相良家 家老
相良頼房（長每）＝相良家 第20代当主
深水宗芳＝相良家 筆頭家老

その後加藤隊はそのまま北上し、永興を奪い更に咸興を攻め落とすと、奪った城を鍋島公らに警護させ北へと進軍した。すると清正は相良勢八百に対し、先に陥した南の安遍城を護るよう命じ、そこを第二軍加藤清正隊の総本陣とする決め、本隊は更に北上を続けて行った。相良軍は一度安遍城まで引き返し、暫くは城の警護と税の徴収に当たる事になった。税の徴収や食料の提供に関しては以外にも領民は素直に応じ、お陰で食糧には事欠く事も無く城内に留まった。

二ヶ月を過ぎた頃、三万を超える明の大軍が安遍城に押し寄せるとの情報を得、堅く城門を閉じていたが、すでに翌日には敵の騎馬隊が城の周りを取り囲み始めた。大将の深水頼藏から

「殿、一度この城を捨てて囲みを破り、漢城へ撤退しては如何でございますか」

と提言があった。諸將たちもそれに同意し、清兵衛もその言葉に賛同しようと思った。『敵方三万に対して我が相良は八百足らず、これでは戦にならぬ。頼藏の意見に従わずばなるまいか』

それに対し頼房公は、頼藏のおしけついた発言を戒める

「聞き及んだか皆の者、殿のご決断だ。ここ安遍城を我らが死に場所とする覚悟で戦い抜くぞ」

「おおう~~~~」

すぐに弓や鉄砲の狙撃隊を城の石垣に配置、その後取り囲んでいた敵軍へ向かつて一斉に放った。これに怯んだ敵軍はかなりの犠牲者を出したので、城を遠巻きにするしかなかった。またその頃の朝鮮や明の鉄砲はいわゆる単なる筒状の物で、射程距離も短く時には暴発し、命中率も威力もかなり低かったので勝負にならなかった。

夕刻になると敵騎馬軍は丘の向こう側に退散していった。清兵衛は頼房公はじめ諸將たちと軍議の輪の中にいた。

「殿の仰せの通りによろこび申した。今日は鉄砲や槍の威力もあって、何とか敵軍の攻撃を凌げましたが、敵は恐らく明日朝、総攻撃を仕掛けて参りましようぞ」

「じゃろっなあ。明日は大乱闘になるやもしれぬぞ。皆の者に心してかかるよう、再度指示を致せ」

「は、かしこまっております。皆の衆、明日は開門して迫る敵軍を蹴散らしましようぞ。今こそ相良の威力、見せつけませう」

思惑通り翌早朝、敵の大軍は太鼓を合図に門の前に現

ように、

「頼藏何と申すか。そちはこの軍の大將なるぞ。清正殿の御命令であり余は城を死守するとの約束を交わしたのじゃ」

敵軍勢の数を聞かされ頼藏は弱腰になっていた。

「しかし殿、あまりにも敵の数が多すぎます」

「何と申すか、敵の軍勢が何というのじゃ。我らは南藤相良武士ぞ、おいそれと逃げる訳には参らぬ。もし叶わずば城を枕に潔く討ち死にするのみよ」

「すでにかなりの敵が城を囲み始めておりますが」

「死を恐れてこの場を逃げたければ逃げるがよからう。しかし今出て行っても敵の餌食になるのが落ちじゃ。それよりもここで城を遵守するが得策とみた。それに見るとこの敵軍はみな騎馬隊、馬にも餌をやらねばならぬが左右に少しばかりの袋を提げておるのみ。兵糧がいつまで持つか知れた事ぞ。今はこの場を凌ぐ事が肝要なり」

とされる決断を下された。清兵衛頼房は、

「さすがは誉れ高き我が殿、これで我ら相良軍の士気も上がり申す。されば仰せの通りに」

と言うと籠城戦に備える決意をし、

れた。今度は明軍をしっかりと引きつけていきなり門を開け、そこに鉄砲や弓矢で総攻撃を加えたので敵は総崩れ、朝鮮兵と明騎馬隊はまたもや退陣を余儀なくさせられた。特に丸目三兄弟が次々と放つ手裏剣はおおいに敵の戦意を失わせた。頃を見計らって兵を引き入れ、またしっかりと城の門を閉じた。この日はその後こう着状態となったが、翌朝、取り囲んでいた無数の敵軍はいつの間にか誰一人おらず、遂に安遍の城を守り抜く事が出来たのであった。公のお察し通り、兵馬の食料もついたのだ。この戦で十名の戦死者と十数名の負傷者を出したが、三万の騎馬兵に対してそれだけの被害でよくも耐え抜いたものだ。

これから真冬までの数カ月、相良軍は北上した本隊の清正軍を待ち、安遍城を警護する事になる。その間清兵衛頼房は丸目蔵人佐に『タイ捨流』の剣術を習い、更に京の街割りの話などいろいろ教わっていたのだ。その後、安遍の城を守った相良武士全員にもその必殺剣が受け継がれた。

(つづく)

【やまぐち・けいじ／人吉市】

外来語から学ぶ英単語 (28) …… 藤原 宏

シュート・シャット・シャッター・シャトル
shoot hut shutter shuttle

これらの語源は印欧語根 **skeud** (打ち出す・投げる) ですが、物が空気を切ってピシャッと止まる音を感じますので、擬音語に近いことばと言えます。

※「shoot (シュート)、射る・発射する」の派生語については 344 番で取り上げましたが、「shut (シャット)、閉じる」との関連は、音声面から意味が転化したものと考えられます。

shut は副詞を伴って多くの複合語を作ります。

※「shut-in (シャットイン)、引きこもった・寝たきりの人」「shutoff (シャットオフ)、切断・遮断」「shutout (シャットアウト)、締出し・(スポーツの) 完封」「shutdown (シャットダウン)、(工場など) 一時休業」など。

※ shutter (シャッター) は、「shut するもの・人」のことですが、通例は「window (ウインドー) shutter」(よろい戸・雨戸) の省略と考えられています。

※ shuttle (シャトル) の原義は「投げ槍・矢」で、ここから「織機で縦糸の間に横糸を入れるために往復運動をする杼」の意となり、さらに定期的に往復する列車・バス・航空機などにも使われるようになりました。「a shuttle bus (バス)」「a space (スペース) shuttle (宇宙連絡船)」など。

(395)

せきれい
鶴 鶴短歌会

六月詠草

雨に咲く色紫のあじさいは濡れて鮮やか初夏を彩り
星流れ病にかへず友垣は西の空へと永久の旅へと

守永 和久

安曇野ゆ家族で帰りし幼な友郷土料理に焼酎も進みぬ

河内 徹夫

正調の子守の唄を聞きながら酒の肴は五木の牛蒡

またひとり黄泉の国へと八期生お別れの日に紫雲を見たり

中村美喜子

愛称で互いに呼び合ふ部活友俳句を趣味に輝き増して

遙々と一族揃って穂高より高校時代の面影残し

高一に文庫と出逢い吾変わる「跪く男」の青春時代へ

西 武喜

父の日に宅配便も来なくなり夫のお墓へ白菊抱え
偉人の碑木漏れ日の中苔おびて郷土の偉人忘れてならぬ

釜田 操

収穫をしたる作物煮炊きして食するたびに喜び感ず
免許証紛失したかと思ひ込み返納すべきかひと日悩みぬ

中原 康子

医師の前患部を診せてる最中に発疹熱に記憶遠のく
体調を崩す度毎親友の優しい言葉に涙が滲む

三原 光代

霧島のエメラルド湖は噴煙を ミヤマキリシマ想えば哀し
幼きに実を摘み食みし桑の木は今や大木実は天高く

橋詰 了一

生きている時間の重み思ふとき妻の静かな日々を祈らん
いろいろなモチーフ描いて二十年美なる女性を何とか描く

堀田 英雄

つらつら…
げっかん・ぎびょう



— トランプ大統領と金委員長への期待 高まる —

休戦状態の「朝鮮戦争」が終結し、恒久平和な時代に戻ってほしいと、世界の人々が求めています。北東アジアの平和のための非核化が待たれます。

Hélène Phung

●
immenses champs de blé vert-
deux vélos couchés au bord du chemin
〔Commentaire de Mitsunori NAGATA〕
Toriawase entre le vaste champ à perte de
vue et deux bicyclettes à coté du chemin. Cela
fait penser au tableau d'un paysage. Avec
l'expression de deux vélos on peut imaginer la
conversation amoureuse d'un couple.

エレヌ フュング

●
広大な緑の小麦畑
道に寝転んだ二つの自転車
〔永田満徳評〕
見晴るかす広大な麦畑と手前にある
自転車との取り合わせは絵画的であ
り、写生的である。「二つの自転車」
からは恋人同士が自転車を乗り捨て
て語り合う様子がうかがえる。

Vincenzo Adamo

●
tuoni lontani
bimbo attaccato al seno di mamma
〔Commented by Mitsunori NAGATA〕
Vincenzo speaks of thunder and of a
baby sucking at his mother's breast. The
contrast between the fear of thunder and
the quietness of the baby is wonderful.

ヴァンセンゾ アダモ

●
遠くに雷
ママのおっぱいにくっついた赤ちゃん
〔永田満徳評〕
遠くの雷の音が響く中で、乳にすがり
ついている赤ん坊を詠んでいる。遠
雷のおどろおどろしさとの対比がすばら
しい。

Mireille Peret

●
les chatons explorent le jardin
petits sauts d'un criquet
〔Commentaire de Mitsunori NAGATA〕
Le contraste est merveilleux entre la
respiration paisible de l'amant proche et
l'orage tel que la guerre et les conflits aux
antipodes.

ミレイユ ペレ

●
子猫が庭を探索する
コオロギの小さな飛翔
〔永田満徳評〕
庭をうろつき回る、好奇心旺盛な子
猫のそばから、コオロギが驚いて、次々
に飛びたっている情景。子猫とコオロ
ギとの関係がよく描かれている。

【ながた・みつり/俳人協会会員、熊本市】

問1 「五足の靴」に登場する5人の若者の名前を書け

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

問2 次の漢字を読み

- ① 鰐口 ()
- ② 筏 ()
- ③ 木綿葉川 ()
- ④ 茅葺 ()
- ⑤ 鑑内橋 ()

問3 オリンピックが開催されたことのある都市名を書け 例：東京

- ① ()
- ② ()
- ③ ()
- ④ ()
- ⑤ ()

問4 次の四字熟語を完成させよ

- ① () 石枕流
- ② 水髓方 ()
- ③ 曲学 () 四
- ④ 自 () 撞着
- ⑤ 頂門 () 針

問4 次の写真の名前を書け (ヒント：本誌 27 号)

- ① ()
- ② ()



※答え合わせは次号でおこないます。前回の答え合わせは85頁で。

⑤ 皇室の構成員は自由に結婚できない △

皇室典範は、男子皇族と女子皇族を分け、前者の婚姻については「皇室会議の議を経ることを要す」と定める(第10条)一方、女子皇族については「婚姻したときは、皇族の身分を離れる」とし、婚姻自由を認めている。

⑥ 国会議員は選出選挙区の利益のために活動する義務を負う ×

憲法前文及び43条により、国会議員は全国民を代表し、選挙区の利益を代表しない(佐藤功『日本国憲法概説全訂五版』429頁。このことは、参議院の合区問題との関連で議論されるところでもある。

⑦ 国会議員の数は憲法が定めている ×

憲法42条2項は国会議員の定数は法律で定めるとする。同項のいう法律は公職選挙法である。つまり公職法で議員定数は定められる。

⑧ 最高裁判所の裁判官は司法試験に合格した者でなければならない ×

裁判所法41条は「識見の高い、法律の素養のある年齢40年以上の者」を資格要件としているだけで、司法試験合格を要件にしていない。じっさい、法曹資格を有しない行政官が最高裁の裁判官になった例が複数ある。

⑨ 国会議員には歳費が支払われるが、地方議員には支払われない ○

憲法49条は、両議院の議員は、法律の定めるところにより、国庫から相当額の歳費を受けると定めている。同法のいう法律は「国会議員の歳費、寮費及び手当等に関する法律」で、法律の名前に示されているように、国会議員にしか適用されない。また、国会法35条は、議員は、一般職の国家公務員の最高額より少くない歳費を国庫から受けるとされている。他方、地方議員については「議員報酬」という言葉が使用されている(地方自治法203条)。「歳費」と「議員報酬」はどこがちがうのか。細かい説明は避けるが、立法者は両者を明確に区別し、地方議員の地位は国会議員の地位に劣ると理解していたことは確認してしかるべきである。

⑩ 憲法41条は国会は国権の最高機関と定めているので、内閣と最高裁判所は国会の決定に従わなければならない ×

憲法81条は最高裁判所は、国会が定めた法律が憲法に適合するかどうかを決定する権限を有すると定めている。いわゆる「違憲立法審査権」である。次に、憲法69条は内閣による衆議院の解散権を定めている。つまり憲法上、内閣と内閣は最高裁判所は国会の決定に従わなければならないとはしていない。それでは憲法41条の「国権の最高機関」の規定をどのように理解すべきか。通説は、それを「政治的美称」にとどまるとする。「政

治的美称」は曖昧な表現であるが、よく出来た表現でもある。法律は堅苦しい分野であると思われがちであるが、必ずしもそうではない。

問4 次の駅のある自治体名を書け 例:八代駅(八代市)

- ① 海路駅(芦北町)
- ② 白石駅(芦北町)
- ③ 渡駅(球磨村)
- ④ 肥後西村駅(錦町)
- ⑤ 公立病院前駅(多良木町)

問4 次の写真の名前を書け(ヒント:本誌26号)

- ①(白髪山天然石橋)
- ②(猫寺)

くまがわ春秋歌壇

いもご短歌会

「平和の詩」朗誦する少女より視線逸らしぬ卑劣漢アベ

「肅々と」進める原発再稼働 地震続発知らぬごとくに

柳原 三男

山里のみどり満ちたる細き道しらすぎ一羽はねひろげゆく

古民家の垣根に赤き木いちこの摘む人もなく道を染めおり

坂本 ケイ

「腕になり脚になるよ」の夫の言うらしく聞きて今日もリハビリ
娘が嫁ぐ離れが終の棲み家なり夫いれくれる新茶の旨し

上田 勉子

球磨川の濁流いよよ増す川面無事の梅雨明け祈りて見つむ

梅雨明けの団地のベランダ賑やかに真白き産着も風に揺れおり

宮川しのぶ

文在寅の熱き思いに動かされ米朝走らす平和の方へ

言葉持つ人類なればの対話なり米朝会谈平和の緒となれ

上田 精一

前号【くまがわ学習塾⑱の答え】

問1 トルストイの翻訳者の名前を5人あげよ（例：北御門二郎）

- ① 徳富蘆花
- ② 中村白葉
- ③ 原 卓也
- ④ 藤島 實
- ⑤ 望月哲男

〈解説〉

北御門は誤訳論争で有名である。特に、中村白葉に対する批判は厳しかった。誤訳論争の意味を考えるためトルストイの各種翻訳を北御門訳と比較しながら読んでいくが、ロシア語の知識不足のため、論争を整理できずにいる。北御門訳は「心訳」と評されるが、その意味も十分に理解できていない。

問2 人吉球磨地方を訪問した有名人の名前を5人あげよ（例：与謝野晶子）

- ① 司馬遼太郎
- ② 木下順二
- ③ 水上 勉
- ④ 藤波孝生
- ⑤ ジョン・エンブリー

〈解説〉

伊勢戸明『くま春秋』（人吉中央出版社）287頁に次の一節がある。「ぜひとも復刻したい一冊がある。昭和二十五年に人吉商工課が刊行した『人吉に来た文人』という冊子……取り上げられている人吉に来た文人、は、橘南谿を筆頭に、田山花袋、徳富蘆花・徳富蘇峰兄弟、斎藤茂吉、若山牧水、与謝野寛・晶子夫妻ら二十人。それぞれの紀行と作品が実に味わい深く綴られ、文人の目を通じて描かれる人吉、がたまらなく恋しくなってくる……」。

木下順二については同書260頁、水上勉については同書322頁、藤波孝生については同書307頁参照。

問3 次の記述は正しいか。正しいときには○を、間違っているときには×をつけよ

- ① 総理大臣は衆議院議員でなければならない ×

〈解説〉

憲法42条は、国会は衆議院と参議院の両院でこれを構成するとし、そのことを前提に、憲法67条は、内閣総理大臣は、国会議員の中から国会の議決で指名すると定める。具体的には両院は、それぞれ総理大臣を指名できる（首班指名）。指名の要件は国会議員であることと文民であることである。

る。国会議員のうちには参議院議員も含まれる。両院の指名が食い違った場合は両院協議会が開催され、両者で成案ができなかったときには衆議院の指名が国会議決になる。衆議院の指名後10日をすぎても参議院が指名を行わない場合にも衆議院の指名が国会議決になる。「国会議員であること」と「文民であること」の両者が資格要件で、「衆議院議員」でなければならないわけではない。参議院議員でも総理大臣になりうる。総理大臣は、国会議員の資格を喪失したときには、総理大臣としての資格を失い、総理大臣の地位を失う。国会議員であることは、総理大臣の選出条件であるとともに存続条件でもある。

- ② 最高裁判所の長官は天皇が任命する ○

憲法第6条第2項。裁判所法39条1項参照。この場合の天皇の任命は国事行為であって、内閣の指名に拘束される。長官以外の最高裁判官は内閣が任命する（裁判所39条2項）。

- ③ 三権の長というとき、参議院議員の議長は含めない ×

三権は、三権分流のもとにある立法権、行政権、司法権を指す。参議院は立法権を司り、その長である参議院議長は、当然、三権の長に該当する。国会は衆議院と参議院で構成される二院制を採用し、どちらかの院が国会を代表するとはされていない。

- ④ 明治憲法のもとでは、「元老」という制度があった ×

元老は、戦前日本で天皇の補弼、内閣総理大臣の推薦などの国家の重要事項に関与したが、明治憲法に元老についての規定はなく、それを定めた法律も存在しない。明治22年(1889年)11月21日、伊藤博文と黒田清隆に対して、「大臣の例によって元老優遇の意を表す」との詔勅があり通常、これを「元老優遇の勅語」といい、元老の法的根拠にされることもあるが、この詔勅を受けていない者も元老に就いている例があって、厳密に、元老とはなにかを定義するのは難しい。結局のところ、天皇及び統治指導者たちに「元老」と認知されていたものが「元老」ということになる。一般に、「憲法外機関」といわれている。憲法・法律上の根拠がない「実力者」で、外国の外交官も元老の動きに注目していた。たとえば、フランスの駐日大使であったポール・クローデルの『孤独な帝国 日本の一八九〇年代』（草思社文庫）など。クローデルは大隈重信と山県有朋の人物像を対比的に鋭く描いている。

以下の者が元老であった。西郷従道と大山巖は、隆盛が賊軍であったため、総理大臣になることはなかったが、元老にはなっている。憲法制度の例外であった元老の性格がここにあらわれている。

- ① 伊藤博文(長州) ② 黒田清隆(薩摩) ③ 山県有朋(長州) ④ 松方正義(薩摩)
- ⑤ 井上薫(長州) ⑥ 西郷従道(薩摩) ⑦ 大山巖(薩摩) ⑧ 西園寺公望(公家)

情報ピックアップ

プラモデル作ろう コンテスト作品募集

あさぎり町の「おどろんがプラモデルコンテスト」実行委員会は今年もプラモデルコンテストの作品を募集している。同コンテストは、夏休み期間中の8月19日から26日まで展示し、観覧者の投票で入賞者を決めるもの。中学生以下のジュニア、高校生、一般の3クラスがあり、各クラスの上位3位までを表彰する。作品は市販されているプラモデルキットを組み立てたもので、未発表のものに限る。一人で複数出品できるが、不安定なものは安定して展示できるように工夫すること。

作品受付は、あさぎり町免田のポツポ一館で、8月18日午前9時から午後5時まで。受付後に同館内展示スペースに飾る。出品手数料は不要。問い合わせは、実行委員会事務局の蓑毛勝輝さん（☎090・3738・9487）へ。

9月に多良木町で作品展 人吉球磨美術連盟

人吉・球磨地域における美術（絵画）の愛好家が気軽に作品を発表し、広く交流することを目的とした「人吉・球磨美術（絵画）連盟」（宮村宏代表）の作品展が9月21日から24日まで、多良木町民総合体育館で開催される。

おっとわっとあすび その⑧

絵と文／松舟博満

ガンのテン普拉

こつどまどけでんおつた、ドグラ釣りしおつて餌ばチョコチョコ動かしおればじきにや（すぐに）寄つて来おつた。かしばり浸けたつちやウナギん食らわんうちミニミズをばおつとつたガン（さわがに）じゃつた。

ながし（梅雨）んこれなれば、山道のぐるりん溝ん中きやソロソロ何十ておつたで、バケツば持つて来てんガン取りじゃつた。

ガンのおつちよ（雄）は、片一方んハサミの太かつたで用心して捕まえんば、そんなかハサミで



なまええと挟まれおつたで、甲羅ば後ろん方からいたて捕まえんばなんじゃつた。

五十ぐりや獲れば急せえで家さみや持つて戻つて、母さんにテン普拉んしてくだいぢゅえば、バケツん中から一ちよすつゴモク（ごみ）ばとつてナべん中きや入れて、めつちよは、裏返やあて腹ば見てへコに卵ば挟すうどれば、別んナべに入れおらいた。

全部ば選り分けらいたなつば、卵もつとるめつちよんナべば持つて「そい、こら卵もつとつて池さみや逃ぎやつけ」て云わんもんで、せつかく捕まえたとばて思つたいどんが、池ん中きや投ん

だうだ。

ガンの入つとるナべん塩ば篩うて良う混ぎつごてして、油のたぎつだせば、生きたまんま長んか箸で挟すうで、油ん中きや入れやれば、パンパシ音んしてガンな動きやせじにやまつきや（真つ赤）ひなつて浮き上がつてくつて、一時そんままんしとつて、ザルん上ん新聞紙ば広げたとん上に揚げていきやる「冷まきやてから、食てみてんの」て云いやつて一番に揚げやいたとば、ハサミでん甲羅でん丸んままポリポリやつて食いおれば、「塩気は、どぎやや」「ちよつと良か、んまかばい」「ハサミでん食いがなつて良う揚げつくるつでない」ちゆうて作つてくれおらいた。

【まつふね・ひろみつ／青井阿蘇神社・文化苑「童遊館」】

すべての人を自分の親だと思って…

〇物 用 機 関 事 人 本 一 仏
〇国 際 入 所 生 産 介 助 所
〇産 所 介 護 事 業 所
〇監 察 介 護 支 援 事 業 所

〒868-0058 人吉市下原田町瓜生田1057-8
 総機関門 ☎0968-22-8821 FAX 0968-22-8822
 在産所門 ☎0968-22-2141 FAX 0968-22-2129
<http://park5.wakwak.com/~ryusalan/>
 e-mail: tonunkai@pb.wakwak.com

社会福祉法人 天雲舎

編集後記

前号に引き続き麦島勝さんの仕事を取り上げた。写真は数多く残されているが、数少ないと思われる文章も残されていた。「球磨川を撮り続けて」(33頁)は、麦島さんの内面を知る上で貴重な記録になっていると感じる。★耕作放棄地を豊かな森に還してゆこうという活動をしている水上焼畑の会の「7年先の森づくり」(4頁)は、みずから楽しんでと思う生活を、自分たちのために続けているところがとても魅力的だ。今後もこの活動に注目していきたい。★前号までの2回にわたって掲載した益田啓三さんの「人吉藩の明治維新」の小説版ともいえる新著『球磨霧此ノ如シ』が6月1日に発刊された(46頁)。人吉市九日町「つぼや履物店」で入手可能で、買い物がてら寄っていただけだと思っ★もうすぐお盆、次号は8月盆前に本誌を届けたいと考えているので、連載執筆陣の原稿は今月末までに入稿していただくことをお願いして、梅雨明け前のペンを置く。(ま)

〒868-0015
熊本市下城本町1436-4の3号
人吉中央出版社「くまがわ春秋」編集部
info@hiyoshi.co.jp
電話・ファックス 0966-23-3759

インフォメーション

開催中

- ▽八代市立博物館企画展「松井文庫Ⅰ」描かれた動物たち(7月16日、未来の森ミュージアム)
- 6月16日(土)
 - ▽高校野球親善大会(川上哲治記念球場)
 - ▽高田宮杯2018熊本県サッカーU-15(17日、人吉市青山多目的グラウンド)
- 6月17日(日)
 - ▽人吉・球磨「音楽歌謡フェスタ2018」(人吉市カルチャーパレス)
 - ▽第46回球磨郡青年団協議会体育会(あさぎり町深田・高山総合運動公園)
 - ▽人吉くま映画文化協会・第106回名画会「美しい夏キリシマ」(あさぎり町深田せきせい館)
- 6月20日(水)
 - ▽ポット・ブリー・真理子展(26日、ひとよし森のホール)
- 6月29日(金)
 - ▽人吉労音例会「TAKAKOシャンソンライブ」(人吉市カルチャーパレス)
- 7月12日(木)
 - ▽劇団とんぼ座公演(30日、人吉市・華の荘リゾートホテル)
 - ▽八代市民教育講座「今考えたい、高齢者の食育」(八代市立図書館2階大集会室)



たけだ眼科クリニック

院長 竹田 憲司

人吉市南泉田町39 ☎23-3096

めがね・コンタクトレンズの

アイウェア 榎

(たけだ眼科ビル内) ☎0966-23-3097

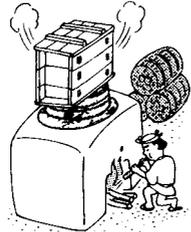
デイサービスセンター

いざみ

ケアプラン作成所いざみ
(居宅介護支援事業所)

協力医療機関 たけだ眼科クリニック
人吉市南泉田町70番地の3 ☎0966-28-3307

匠の枝



御膳醤油

(だし入り万能しょうゆ)



◆納豆みそ (お徳用) 300円 (税抜)

◆みそ煎餅 477円 (税抜)



◆納豆みそ 477円 (税抜)

人吉散策コース 九州和食 蔵めぐり

みそ・しょうゆ蔵

合資会社 釜田醸造所
マルカマ 社長 釜田元嘉頭

〒868-0001 熊本市人吉市鍛冶屋町16
電話 (0966) 22-3164
FAX (0966) 22-3165
メール info@marukama.co.jp